

令和 8 年度 (2026 年度)

シラバス (授業計画)

作業療法学科 1 年次

科目名	心理学	開講年度	2026	期	前期		
科目担当責任者	城下 未来（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師） （実務経験：有）公認心理師・臨床心理士として学校や民間相談機関、産業メンタルヘルスなどでのカウンセリングに従事。それらの経験を踏まえて、対人援助場面において必要な心理学の知識について講義を行う。						
科目担当者	城下 未来						
学 科	作業療法学科	学 年	1				
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業の概要 （主題）	心理学の成り立ちと人の心の基本的な仕組み及び働きを理解する。 心理学的な見方を身につけ、援助の対象となる人の心理や行動を理解する糸口を見つけられるようになることをねらいとする。
授業の到達目標	1. 心理学の成り立ちや心の基本的な仕組み及び働きを理解することができる 2. 人間の様々な活動に心の動きが影響を与えていることを理解できる 3. 自身の心の状態を把握し、日常生活の中で心をコントロールすることができる

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	心理学概説	城下
第2回	心理学の歴史、研究法	城下
第3回	感覚と知覚①	城下
第4回	感覚と知覚②	城下
第5回	記憶①	城下
第6回	記憶②	城下
第7回	思考	城下
第8回	感情・動機づけ	城下
第9回	学習①	城下
第10回	学習②	城下
第11回	コミュニケーション①	城下
第12回	コミュニケーション②	城下
第13回	社会と集団①	城下
第14回	社会と集団②	城下
第15回	まとめ	城下

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他(   ) ( 80%)   (   %)   (   %)   ( 20%)   (   %)   (   %)
準備学習 学習へのアドバイス	学習内容が多いため、各自で復習しながら取り組んでくれることを望みます。
履修条件	

教科書	系統看護学講座 基礎分野 心理学（医学書院）
参考書	適宜紹介します

科目名	日本語表現法	開講年度	2026	期	前期		
科目担当責任者	古市 寛						
	(実務経験: <input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無) ・代表弁護士として法律事務所に所属。刑事民事問わず、様々な裁判実務を担当。 ・言語の専門家として、自らの言葉の効果を考え、発することが出来るように指導する。						
科目担当者	古市 寛 (大村綜合法律事務所 弁護士)						
学 科	作業療法学科	学 年	1				
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 (主題)	1. 職業倫理について考える。 2. 言葉の持つ力について考える。 3. 職業倫理を実践するための言葉を考える。
授業の到達目標	社会人及び職業人として活躍する自分を想像し、自分が発すべき「言葉」を考えることにより、職業倫理を実践するための言葉を発する素養を身につける。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第1回	本講座の概説	古市 寛
第2回	職業倫理について①	〃
第3回	職業倫理について②	〃
第4回	言葉の持つ力について①	〃
第5回	言葉の持つ力について②	〃
第6回	言葉の持つ力について③	〃
第7回	職業倫理を実践する言葉について①	〃
第8回	職業倫理を実践する言葉について②	〃

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (60%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (40%) <input type="checkbox"/> レポート ( %) <input type="checkbox"/> その他 ( )
準備学習 学習へのアドバイス	予習、復習は要りません。講義の中で考えて下さい。
履修条件	想像力
教科書	関係資料配布
参考書	特になし

科目名	文化人類学	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	畠山 均 (所属 長崎純心大学人文学部 名誉教授)				
	(実務経験:有) 民間企業や教員対象の異文化コミュニケーション研修において講師として多数の経験を有す。グローバル化時代に社会人として生活していく上で必要な異文化理解能力が身につくよう指導する。				
科目担当者	畠山 均				
学 科	作業療法学科	学 年	1		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 (主題)	<p>文化人類学は主として自分が生まれ育った文化とは異なる他の文化を様々な視点から研究し、自分の文化と比較する事を通して自らの文化を客観的かつ相対的に見る視点を与えてくれる。その意味で文化人類学とは自分を理解するための学問である。</p> <p>この講義ではこれまでの文化人類学の研究成果を踏まえ、現代世界において他の文化を理解する事の重要性について考えていく。具体例として日本語と英語のコミュニケーションの違いを論じていく。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代日本社会の多文化状況を理解し、説明できる。</li> <li>2. 「見える文化」と「見えない文化」の違いを理解し、「見えない文化」を理解する事の重要性を説明できる。</li> <li>3. コミュニケーションと価値観との関係を理解し、説明できる。</li> <li>4. ステレオタイプが文化背景を異にする他者を理解する上でどのように影響しているかを理解し、具体的事例について説明できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	(1) オリエンテーション、(2) 多文化化する現代日本社会の現状	畠山
第2回	偏見とステレオタイプー日本人のイスラム教徒の理解を例として、小テスト1	畠山
第3回	文化を考える視点 (1)ー高等文化と一般文化	畠山
第4回	文化を考える視点 (2)ー見える文化と見えない文化、小テスト2	畠山
第5回	価値観とコミュニケーション (1)	畠山
第6回	価値観とコミュニケーション (2)、小テスト3	畠山
第7回	価値観とコミュニケーション (3)	畠山
第8回	価値観とコミュニケーション (4)、小テスト4	畠山

成績評価の方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他 (グループディスカッションレポート)
(評価の基準)	( 50%)    (   %)    (   %)    (25%)    (   %)    ( 25%)
準備学習 学習へのアドバイス	講義だけではなく、動画視聴、グループディスカッションを頻繁に取り入れる。特にグループディスカッションレポートは成績評価において大きな割合を占めるのでグループディスカッションには積極的に参加し、グループレポートを作成すること。
履修条件	なし

教科書	欧米人が沈黙するとき (直塚玲子著), 大修館書店
参考書	授業中に指示する

科目名	社会福祉概論	開講年度	2026	期	前期		
科目担当責任者	柏木 伸子 (社会福祉法人ことの海会 相談支援センタースマイル 相談支援専門員)						
	(実務経験*:有) ・社会福祉士取得後、障害者支援施設で入所・通所のご利用者とそのご家族の様々な相談や困難ケースの対応を実践してきた。 ・平成20年より障害児入所施設の民間移譲に伴い、園長として児童相談所をはじめ福祉行政機関および教育機関との連携のため、ネットワークの構築に努めた。 ・地域の自立支援協議会委員として、「児童発達支援部会」の設置を呼びかけ、また、児童発達支援センターの創設に取り組んだ。 ・障害児者支援の要である「児童発達支援管理責任者およびサービス管理責任者」の国研修を受け、長年、県の講師及びファシリテーターを務めた。 ・障害児入所施設及び児童発達支援センターでは、貴校の臨床実習の受け入れも行えるよう作業療法士の人員配置等を考慮し、その他の国家資格取得のための現場実習も多数実施してきた。 ・障害児者が地域で暮らしていくために、福祉だけでなく医療・教育との連携の必要性を理解できるよう、また、現実としての国の現状を、講義の中で促していく。						
科目担当者	柏木 伸子						
学 科	作業療法学科	学 年	1				
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 (主題)	人びとの生活を保障する社会福祉の形成過程をふまえて法律や制度、福祉サービスを理解し、援助方法について基礎的な知識を学ぶ。これらの学びをとおして、リハビリ専門職としてそれらを社会資源として活用できるようになることを目指す。
授業の到達目標	社会福祉の法律と制度の概要を理解できる 社会福祉のサービスを理解できる 社会福祉の援助を理解できる

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	社会福祉の歴史	柏木
第2回	社会福祉の動向	柏木
第3回	高齢者福祉サービス	柏木
第4回	障害者福祉サービス	柏木
第5回	児童家庭福祉サービス	柏木
第6回	地域福祉サービス	柏木
第7回	社会福祉の援助1	柏木
第8回	社会福祉の援助2	柏木

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input type="checkbox"/> 小テスト ( %) <input type="checkbox"/> レポート ( %) <input type="checkbox"/> その他( ) ( %)
準備学習 学習へのアドバイス	リハビリ専門職として関わる人々を取り巻く制度や社会保障等に理解を深めることで広い視野を持ち、さらなる専門職としてのスキルと高めてください。
履修条件	積極的に取り組み、私語等は慎むこと

教科書	医学書院『系統看護学講座 社会保障・社会福祉』
参考書	

科目名	生物学	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	久保 惣二郎 (所属 元青雲高等学校 教諭)				
	(実務経験：無) 高等学校にて化学・生物学を指導した経験を活かして、講義を行う。				
科目担当者	久保 惣二郎				
学 科	作業療法学科	学 年	1		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 (主題)	専門科目の基礎となる人体の構成、機能と調節、代謝、ヒトの遺伝などについて基礎知識を学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞のはたらき、組織・器官の役割を理解する。</li> <li>2. エネルギーの移動に注目して、代謝のしくみを理解する。</li> <li>3. 恒常性の維持と外部環境との関わりを理解する。</li> <li>4. 生殖と発生、遺伝について理解する。</li> <li>5. 受容器と効果器の構造とはたらきについて理解する。</li> </ol>

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	生物の分類、細胞のはたらき	久保
第2回	光合成のしくみ、呼吸のしくみ	久保
第3回	エネルギー交代、内部環境	久保
第4回	遺伝子と DNA、生物の生殖法	久保
第5回	遺伝法則、様々な遺伝現象	久保
第6回	動物の発生のしくみ	久保
第7回	受容器の構造とはたらき	久保
第8回	効果器の構造とはたらき	久保

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input type="checkbox"/> 小テスト ( %) <input type="checkbox"/> レポート ( %) <input type="checkbox"/> その他( ) ( %)
準備学習 学習へのアドバイス	講義資料を繰り返し熟読し、理解するよう努めること。
履修条件	必ず出席すること。積極的な態度で受講すること。

教科書	人間のための一般生物学 裳華房
参考書	必要時の授業で紹介する。

科目名	物理学	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	福田 健一（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師）				
	（実務経験：有）病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに物理学を学ぶために必要な基礎知識について講義する。				
科目担当者	福田 健一（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師）				
学 科	作業療法学科			学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 （主題）	理学療法士・作業療法士に必要な力学について講義・演習します
授業の到達目標	力学の基礎事項（力・重量・モーメントなど）について理解する 国家試験に出題されるレベルの問題を解けるようになる

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第1回	物理学とは 物理学を学習する理由 力学の基礎事項	福田
第2回	モーメント・トルク・つり合い	福田
第3回	圧力	福田
第4回	仕事とエネルギー	福田
第5回	てこの原理	福田
第6回	生体力学	福田
第7回	国家試験演習問題	福田
第8回	まとめ	福田

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他( ) ( 100% ) ( % ) ( % ) ( % ) ( % ) ( % )
準備学習 学習へのアドバイス	特に準備する必要はありませんが、講義中に演習する問題を根本から理解するようにしてください。 講義中に Forms を使って演習問題を行います。接続可能なデバイスを準備してください。
履修条件	

教科書	リハベーシック 物理学・臨床応用物理 基礎運動学
参考書	

科目名	統計学	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	中道 隆広 (長崎総合科学大学 総合情報学部 総合情報学科 准教授 ) (実務経験：無)				
科目担当者	中道 隆広				
学 科	作業療法学科	学 年	1		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
		時間数	15		

授業の概要 (主題)	データ処理を行うためには統計手法を用いることが必要である。統計手法を適切に利用するために、前提となる重要な考え方を学びデータ処理を行う前から統計手法を意識できるようにする。
授業の到達目標	統計処理の基本を理解 仮説を検証することができるようになる。 統計的仮説検定を理解し、評価することができる。

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	統計学の基礎知識	中道
第2回	データのまとめる方法	〃
第3回	標本と母集団	〃
第4回	分散と標準偏差	〃
第5回	正規分布とそのほかの分布	〃
第6回	仮説の立て方	〃
第7回	統計的仮説検定のしくみ	〃
第8回	有意差検定の意味	〃
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他( ) ( 100% ) ( % ) ( % ) ( % ) ( % ) ( % )
準備学習 学習へのアドバイス	教科書を中心に講義を進め、適所でパワーポイントを使い重要な個所の説明を行います。
履修条件	

教科書	健康・スポーツ科学のためのやさしい統計学 出村慎一、杏林書院
参考書	

科目名	保健体育 1	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	森 日香里 (所属 向陽学園 向陽高校)				
	(実務経験：無) 高校教員としての経験をもとに、学生の指導にあたる。				
科目担当者	森 日香里				
学 科	作業療法学科	学 年	1		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 (主題)	記録や勝敗にこだわらず、職場の仲間や気の合う仲間とのふれあいを重視し、生涯継続して楽しむことにより、心身の健康に良い影響をおよぼすレクリエーションスポーツに対する社会的ニーズが高まっている。そこで「生涯を通じていつでも、どこでも、誰とでもスポーツに親しむ」ことができるように、団体で行えるスポーツを中心に基本的な知識と実践能力を養うことを目的とする。
授業の到達目標	1、安全・健康を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを確立する。 2、勝敗を競う楽しさや喜びを知る。 3、チームや自己の課題に応じた練習計画や作戦を立て、取り組み方を工夫し考える力をつける。 4、フェアなプレイを大切に、また仲間を尊重できるようにする。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	オリエンテーション・ルール確認・グループ分け・練習	森
第2回	バレーボール	森
第3回	バレーボール	森
第4回	バレーボール	森
第5回	バスケットボール	森
第6回	バスケットボール	森
第7回	バドミントン	森
第8回	バドミントン	森

【変更後】

成績評価の方法 (評価の基準)	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他(出席・態度) (    %)    (    %)    (    %)    (    %)    (    %)    ( 100 %)
準備学習 学習へのアドバイス	出席や受講態度での評価を行いますので、休まないこと。
履修条件	

教科書	
参考書	

科目名	外国語	開講年度	2026	期	後期
科目担当責任者	ブリガンティ ジェームズ ジョセフ				
	(実務経験：無) 大学において英語の非常勤講師として学生指導にあたる				
科目担当者	ブリガンティ ジェームズ ジョセフ				
学 科	作業療法学科	学 年	1		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 (主題)	幅広い視野を養うため医療人(理学療法士・作業療法士)として知っておくべき重要な外国語を学ぶ。外国語の基礎を習得します。
授業の到達目標	外国語の基礎固めに加えて医療で用いる専門用語も学習、理解できるようにします。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	Course Introduction/Writing Sample	JOSEPH
第2回	Vocabulary Building;;Body Parts and Common Requests(verbs)	JOSEPH
第3回	Review,Common Requests(con't),Body parts,Hospital Items,Bedside Manner	JOSEPH
第4回	Review,Common Disorders and Symptoms/Pain Words	JOSEPH
第5回	Review,Quiz Activity, Disorders and Symptoms(con't)	JOSEPH
第6回	Review,Patient Requests/Activites(con't)Root Words	JOSEPH
第7回	Review,Bedside Manner Revisited/Review,	JOSEPH
第8回	Closed Notes Review and Pair/Group Practice,Final Review	JOSEPH
第9回	Final Quiz Activity,Practical English Usage Practice	JOSEPH

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%)	<input type="checkbox"/> 実技試験 ( %)	<input type="checkbox"/> 実習評価 ( %)	<input type="checkbox"/> 小テスト ( %)	<input type="checkbox"/> レポート ( %)	<input type="checkbox"/> その他 ( %)
準備学習 学習へのアドバイス						
履修条件						

教科書	看護英会話入門 第3版 (医学書院)
参考書	

科目名	ホスピタリティー論1	開講年度	2026	期	前後期
科目担当責任者	田中 美吉子 (所属 合同会社ヒューマンナガサキ)				
	(実務経験：有) ホスピタリティー業界での長年の職務経験と、企業や行政での研修経験を活かして指導にあたる				
科目担当者	田中 美吉子				
学 科	作業療法学科			学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 (主題)	<p>・医療現場におけるホスピタリティーの重要性と接遇の基本を学ぶ。</p> <p>状況が許す限り演習を交え、医療従事者に求められる接遇五原則を実践的に身につけていく。</p>
授業の到達目標	<p>日常生活や実習先においても、授業で学んだ他者への心配りを強く意識し、自ら考え行動化できるようになること。</p>

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	医療機関における接遇の重要性・医療従事者に求められる接遇とは	田中
第2回	状況に応じた挨拶、安心感を与える身だしなみ、表情、立居振舞い	田中
第3回	言葉づかい・敬語づかいの基本、間違えやすい敬語づかい	田中
第4回	心配りを感じさせる言葉づかいと話し方 (小テスト実施)	田中
第5回	電話応対の基本・実習前のご挨拶と演習	田中
第6回	Eメール、FAX、Line、御礼状のマナー	田中
第7回	患者さんとのコミュニケーション・傾聴の演習 (聴くワーク)	田中
第8回	これまでの総復習 弱点克服 総合試験	田中

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (50%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( )% <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 他者との関わり方 (20%) <input type="checkbox"/> 小テスト ( )% <input type="checkbox"/> レポート ( )% <input checked="" type="checkbox"/> その他(授業態度) (30%)
準備学習 学習へのアドバイス	<p>接遇マナーを学ぶ授業であることを踏まえて授業に臨んでください。話を聞く姿勢やクラスメイトとの関わり方も評価の対象です。</p>
履修条件	

教科書	なし プリントを配布
参考書	

科目名	解剖学1 (骨・関節・靭帯・筋)	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	桑原 由喜 (長崎リハビリテーション学院) (実務経験:有) 作業療法士としての臨床現場での経験をもとに指導にあたる				
科目担当者	桑原 由喜, 田中 剛				
学 科	作業療法学科	学 年	1		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	4
				時間数	80

授業の概要 (主題)	人体の構造について理解を深める
授業の到達目標	骨の各名称を説明できる 骨・筋・関節・靭帯の概要を説明できる 筋の名称と走行・付着部を説明できる

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	骨の名称	桑原	21	骨の名称	田中
2	骨の名称	桑原	22	脊柱・胸郭の骨の名称	田中
3	骨の総論	桑原	23	脊柱・胸郭の構造	田中
4	骨の各部の名称	桑原	24	骨盤の名称と構造	田中
5	骨の各部の名称	桑原	25	股関節の構造	田中
6	筋の名称	桑原	26	股関節の構造	田中
7	筋の付着部	桑原	27	膝関節の構造	田中
8	筋の付着部	桑原	28	膝関節の構造	田中
9	筋の付着部	桑原	29	足関節の構造	田中
10	筋の付着部	桑原	30	骨盤・股関節周囲の筋	田中
11	筋の付着部	桑原	31	骨盤・股関節周囲の筋	田中
12	腕神経叢と神経支配	桑原	32	大腿部の筋	田中
13	腕神経叢と神経支配	桑原	33	大腿部の筋	田中
14	肩関節の構造	桑原	34	大腿部の筋	田中
15	肘関節の構造	桑原	35	大腿部の筋	田中
16	手関節の構造	桑原	36	下腿の筋	田中
17	頭蓋骨の名称	桑原	37	下腿・足部の筋	田中
18	頭蓋骨の名称	桑原	38	下腿～足部の筋	田中
19	頭蓋骨の名称	桑原	39	脊柱・体幹の筋	田中
20	表情筋・咀嚼筋	桑原	40	脊柱・体幹の筋	田中

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (90%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( % ) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( % ) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (10%) <input type="checkbox"/> レポート ( % ) <input type="checkbox"/> その他(   ) ( % )
準備学習 学習へのアドバイス	理解を深めるためには毎回の講義の積み重ねが大切です。復習を欠かさないようにしてください。
履修条件	

教科書	人体解剖学(南江堂)、プロメテウスコアアトラス (医学書院)
参考書	ヒント式トレーニング 解剖学・運動学 (南江堂)

科目名	解剖学 2 (脈管・神経)		開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	眞浦 健人 (長崎リハビリテーション学院)					
	(実務経験:有) 病院・介護施設にて作業療法士として勤務。現場の経験をもとに解剖学 2 の指導にあたる。					
科目担当者	井戸 佳子 (元長崎リハビリテーション学院)・眞浦 健人					
学 科	作業療法学科				学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数
						45

授業の概要 (主題)	脈管・神経系の基本的な構造や機能を系統的に理解し、疾患や障害に結びつけて考える力を養う。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心臓の構造を説明することができる。</li> <li>・動脈系の循環、特殊な静脈系の循環、胎児循環、リンパ管系の循環を説明することができる。</li> <li>・中枢神経系の構造と機能を説明することができる。</li> <li>・末梢神経系の構造と機能を説明することができる。</li> <li>・主要な伝導路について説明することができる。</li> </ul>

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	神経系総論	井戸	13	伝導路 遠心路	井戸
2	神経系各論 中枢神経系 脊髄	井戸	14	伝導路 求心路	井戸
3	中枢神経系 脳	井戸	15	伝導路 求心路	井戸
4	中枢神経系 脳	井戸	16	脈管系総論	眞浦
5	中枢神経系 保護機構	井戸	17	脈管系各論 心臓	眞浦
6	脳や脊髄の脈管	井戸	18	肺循環と体循環	眞浦
7	末梢神経系 脳神経	井戸	19	動脈系	眞浦
8	末梢神経系 脳神経	井戸	20	動脈系	眞浦
9	末梢神経系 脊髄神経	井戸	21	静脈系、胎児循環	眞浦
10	末梢神経系 自律神経	井戸	22	脾臓、胸腺	眞浦
11	末梢神経系 自律神経	井戸	23	リンパ管系	眞浦
12	伝導路 遠心路	井戸			

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (90%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (10%) <input type="checkbox"/> レポート ( %) <input type="checkbox"/> その他( ) ( %)
準備学習 学習へのアドバイス	※成績は、神経 60%、脈管 40%とします。 立体的にイメージできるようになってください。復習を欠かさないようにしてください。
履修条件	なし

教科書	病気が見える 7 脳・神経, メディックメディア, 2019
参考書	人体解剖学, 南江堂, 2003 年 プロメテウス解剖学, 医学書院

科目名	解剖学3 (内蔵・感覚器)	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	内田 智子 (長崎リハビリテーション学院)				
	(実務経験:有) 作業療法士としての臨床現場での経験をもとに指導にあたる				
科目担当者	内田 智子				
学 科	作業療法学科			学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2
				時間数	45

授業の概要 (主題)	消化呼吸器系、泌尿生殖器系、内分泌腺、感覚器について、その機能と構造を理解する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各内臓器の位置が説明できる</li> <li>・各内臓器の構造が説明できる</li> <li>・各内臓器の機能が説明できる</li> </ul>

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	総論	内田	13	呼吸器の構造と機能	内田
2	消化器の構造と機能	内田	14	呼吸器の構造と機能	内田
3	消化器の構造と機能	内田	15	呼吸器の構造と機能	内田
4	消化器の構造と機能	内田	16	呼吸器の構造と機能	内田
5	消化器の構造と機能	内田	17	生殖器の構造と機能	内田
6	消化器の構造と機能	内田	18	内分泌腺の構造と機能	内田
7	消化器の構造と機能	内田	19	内分泌腺の構造と機能	内田
8	消化器の構造と機能	内田	20	感覚器の構造と機能	内田
9	消化器の構造と機能	内田	21	感覚器の構造と機能	内田
10	呼吸器の構造と機能	内田	22	感覚器の構造と機能	内田
11	呼吸器の構造と機能	内田	23	感覚器の構造と機能	内田
12	呼吸器の構造と機能	内田			

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (70%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (30%) <input type="checkbox"/> レポート ( %) <input type="checkbox"/> その他( %)
準備学習 学習へのアドバイス	必ず復習を行い、わからない所をそのままにせず質問するようにして下さい。 丸暗記ではなく理解するように努めましょう。
履修条件	必修科目であるので必ず出席すること。

教科書	人体解剖学, 南江堂, 改訂第42版 2003年
参考書	からだが見える 人体の構造と機能, メディックメディア

科目名	生理学	開講年度	2026	期	前後期		
科目担当責任者	村田 潤（所属 長崎大学 大学院 医歯薬学総合研究科 准教授）						
	（実務経験：有）作業療法士として「生理学」を専門に研究分野での実績をもとに指導にあたる						
科目担当者	村田 潤						
学 科	作業療法学科	学 年	1				
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	4	時間数	60

授業の概要 （主題）	ヒトの基本的な生理機能について器官系統ごとに学習し、理解を深める。また、課題レポートを通して、問題解決に対して自主的に取り組む態度を涵養する。
授業の到達目標	ヒトの基本的な生理機能について、器官系統ごとに説明することができる。

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	細胞の内部環境, 細胞興奮 (静止電位と活動電位), 興奮伝導とシナプス伝達	村田	17	血液 I (体液の区分, 血液の機能)	村田
2	骨格筋の収縮 I (収縮メカニズム)	村田	18	血液 II (生体防御)	村田
3	骨格筋の収縮 II (収縮力学, 筋線維タイプ)	村田	19	腎臓と排泄 I (腎臓の機能)	村田
4	不随意筋 (心筋, 平滑筋) の収縮	村田	20	腎臓と排泄 II (排尿)	村田
5	小テスト (講義 1~4 の内容), 末梢神経系の機能 (体性神経と自律神経)	村田	21	小テスト (講義 1~4 の内容), 呼吸 I (呼吸運動)	村田
6	中枢神経系 I (脊髄, 脳幹, 間脳の機能)	村田	22	呼吸 II (肺気量, %肺活量, 1 秒率)	村田
7	中枢神経系 II (小脳・大脳基底核の機能)	村田	23	呼吸 III (呼吸ガスと血液ガス, 呼吸の調節)	村田
8	中枢神経系 III (大脳皮質の機能)	村田	24	消化と吸収 I (消化器総論, 嚥下, 胃での消化)	村田
9	小テスト (講義 5~8 の内容), 感覚 I (体性感覚, 視覚)	村田	25	小テスト (講義 5~7 の内容), 消化と吸収 II (小腸・大腸での消化)	村田
10	感覚 II (聴覚・平衡感覚, 味覚, 嗅覚)	村田	26	消化と吸収 II (排便, 肝臓の機能), 内分泌 I (内分泌ホルモンの性質と特徴)	村田
11	小テスト (講義 9~10 の内容), 循環 I (大循環と小循環)	村田	27	内分泌 II (各ホルモンの作用)	村田
12	循環 II (心臓の機能, 心電図, 心周期)	村田	28	エネルギー代謝	村田
13	循環 III (血圧, 血圧の調節)	村田	29	小テスト (講義 9~11 の内容), 体温調節	村田
14	循環 IV (微小循環, リンパ)	村田	30	運動生理 (運動時の生体反応)	村田
15	小テスト (講義 11~14 の内容)	村田	31	小テスト (講義 12~14 の内容)	村田
16	前半講義内容のまとめ	村田	32	後半講義内容のまとめ	村田

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (60%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( % ) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( % ) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (40%) <input type="checkbox"/> レポート ( % ) <input type="checkbox"/> その他( % )
準備学習 学習へのアドバイス	毎回、授業終了時にレポートを課します。授業内容を十分に理解するため、積極的に質問して下さい。
履修条件	

教科書	授業は配布プリントを中心に使用します。教科書は授業内容を補うためのものとしします。
参考書	からだの構造と機能    メディックメディア

科目名	人間発達学	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	住吉 秀人（所属 放課後等デイサービス サニー 作業療法士）				
	（実務経験：有）発達・小児分野で作業療法士として携わっており、その経験をもとに講義を行う。				
科目担当者	住吉 秀人・田中 剛・坪田 優一				
学 科	作業療法学科	学 年	1		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2
				時間数	30

授業の概要 (主題)	作業療法実践に必要な人間発達に関する知識
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法実践に必要な人間発達に関する知識を習得する。</li> <li>・定型発達について学び、評価に役立てる。</li> <li>・発達理論を知り、人に対する多角的な理解に役立てる</li> </ul>

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	人間発達とは	住吉
第2回	人間発達とは	住吉
第3回	身体や運動の発達	住吉
第4回	身体や運動の発達	住吉
第5回	言語の発達	住吉
第6回	社会性の発達	住吉
第7回	反射と姿勢反応	住吉
第8回	反射と姿勢反応	住吉
第9回	疾患や特性	住吉
第10回	疾患や特性	住吉
第11回	発達の評価	住吉
第12回	発達の評価	住吉
第13回	幼稚園施設見学	田中・坪田
第14回	幼稚園施設見学	田中・坪田
第15回	幼稚園施設見学	田中・坪田
第16回	幼稚園施設見学	田中・坪田

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 ( 80 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( % ) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( % ) <input type="checkbox"/> 小テスト ( % ) <input checked="" type="checkbox"/> レポート ( 20 %) <input type="checkbox"/> その他( ) ( % )
準備学習 学習へのアドバイス	
履修条件	

教科書	リハビリテーションのための人間発達学（メディカルプレス、大城昌平）
参考書	

科目名	運動学	開講年度	2026	期	後期
科目担当責任者	田中 剛 (長崎リハビリテーション学院) (実務経験：有) 病院にて作業療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに指導にあたる。				
科目担当者	桑原 由喜, 田中 剛				
学 科	作業療法学科	学 年	1		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	4
		時間数	60		

授業の概要 (主題)	運動学はヒトの運動を科学的に捉える学問です。本講義では前期の解剖学 1 や生理学での学習を踏まえ、身体の運動のメカニズムを理解するために運動器に焦点をあてた知識の習得を図り、また生体力学の基礎や歩行についての習得を図っていきます。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の特徴について理解し述べるができる</li> <li>・生体力学について理解し述べるができる</li> <li>・歩行について理解し述べるができる</li> <li>・中枢神経機構について理解し述べるができる</li> </ul>

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	・筋の起始停止 (上肢)	桑原	16	・筋の起始停止 (下肢)	田中
2	・肩関節の運動の特徴、運動方向	桑原	17	・体幹・下肢の運動方向	田中
3	・筋の作用	桑原	18	・股関節の運動の特徴	田中
4	・筋の作用	桑原	19	・股関節の運動の特徴	田中
5	・肘関節の運動の特徴	桑原	20	・膝関節の運動の特徴	田中
6	・筋の作用	桑原	21	・膝関節の運動の特徴	田中
7	・筋の作用	桑原	22	・足関節・足部の運動の特徴	田中
8	・肘関節の運動の特徴	桑原	23	・足関節・足部の運動の特徴	田中
9	・筋の作用	桑原	24	・姿勢	田中
10	・手関節の運動の特徴	桑原	25	・姿勢	田中
11	・正常歩行	桑原	26	・運動の中枢神経機構	田中
12	・正常歩行	桑原	27	・運動の中枢神経機構	田中
13	・正常歩行	桑原	28	・エネルギー代謝	田中
14	・正常歩行	桑原	29	・運動学習	田中
15	・顔面筋	桑原	30	・運動処方	田中

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 ( 90%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( % ) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( % ) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト ( 10%) <input type="checkbox"/> レポート ( % ) <input type="checkbox"/> その他( )
準備学習 学習へのアドバイス	筋の走行、起始・停止の復習をしてから授業に臨んでください。解剖学や生理学の知識を踏まえながら講義は進んでいきますので、予習・復習を欠かさないようにしてください。
履修条件	

教科書	基礎運動学 (医歯薬出版)、
参考書	筋骨格系のキネシオロジー (医歯薬出版)

科目名	運動学実習	開講年度	2026	期	後期		
科目担当責任者	内田 智子（長崎リハビリテーション学院） （実務経験：有）作業療法士として臨床現場での経験をもとに指導にあたる						
科目担当者	内田 智子、桑原 由喜、田中 剛						
学 科	作業療法学科	学 年	1				
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	45

授業の概要 （主題）	運動学で学習した人体の身体運動について、基本的な観察方法、分析に関して実習を通して学習する。体表からの筋の触診、筋と関節運動、上肢、（肩甲上腕リズム）、下肢（二関節筋、体幹（骨盤腰椎リズム）などに関する実習を行うとともに、正常歩行、異常歩行について実習を通して学習する。
授業の到達目標	・人体の身体運動について観察・分析ができる

授業計画						
回数	内 容	担当	回数		担当	
1	動作分析総論	内田	12	骨格筋と関節運動 上肢帯・上肢頭	桑原	
2	基本動作分析	内田	13	骨格筋と関節運動 上肢帯・上肢頭	桑原	
3	基本動作分析	内田	14	骨格筋と関節運動 手	桑原	
4	基本動作分析	内田	15	骨格筋と関節運動 手	桑原	
5	歩行分析（正常歩行）	内田	16	バイオメカニクス	桑原	
6	歩行分析（正常歩行）	内田	17	バイオメカニクス	桑原	
7	歩行分析（正常歩行）	内田	18	骨格筋と関節運動 頸部・体幹	田中	
8	歩行分析（異常歩行）	内田	19	骨格筋と関節運動 頸部・体幹	田中	
9	歩行分析（異常歩行）	内田	20	骨格筋と関節運動 下肢	田中	
10	体力と運動処方	内田	21	骨格筋と関節運動 下肢	田中	
11	まとめ	内田	22	関節運動と筋活動の分析	田中	
			23	立ち直り・バランス反応	田中	

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他(    ) ( 100% )    (    % )    (    % )    (    % )    (    % )    (    % )
準備学習 学習へのアドバイス	まずは運動学の内容を復習すること
履修条件	

教科書	基礎運動学、第7版（医歯薬出版）
参考書	PT・OTのための運動学実習（三輪書店） PT・OTのための運動学テキスト（金原出版株式会社）

科目名	医学概論	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	松屋 福蔵 (所属 長崎医療センター 臨床検査科 医師 ) (実務経験 : 有) 1978年に医師となり、以後、各地の病院にて主に泌尿器科医師として勤務。臨床現場の経験をもとに医学、医療の全体像 (医学概論) について講義予定。				
科目担当者	松屋 福蔵				
学 科	作業療法学科	学 年	1		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 (主題)	・将来、医療に従事する中、問題を見つけ、解決策を模索する姿勢を身につける。あふれる情報の中、的確に情報を収集、整理、活用する習慣を身につける。各授業は前半を基本事項、後半を専門基礎分野を組み合わせる進めていく予定です。(概略は下記)
授業の到達目標	・教科書 (医学概論) を理解できる。・日常目にする情報にも触れつつ日々進歩、変化する医学、医療に目を向ける習慣をつける。・種々の医学用語、基礎的な解剖生理学を概略、理解できる。・代表的な病態、疾患について自学できる基礎を作る。

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	医学概論の総論 授業の進め方 基本事項 (第1章～3章)	松屋
第2回	基本事項 (第12章) 主に感染症関連を中心に	〃
第3回	基本事項 (第7章～8章)	〃
第4回	基本事項 (第9章～13章)	〃
第5回	専門基礎分野 (第4章)	〃
第6回	専門基礎分野 (第5章)	〃
第7回	専門基礎分野 (第6章)	〃
第8回	講義のまとめと試験について	〃
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

成績評価の方法 (評価の基準)	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト □レポート □その他( ) (100%) ( %) ( %) ( %) ( %) ( %)
準備学習 学習へのアドバイス	・教科書を中心に頭の中を整理する。 ・新聞、TVなどからの正確な情報収集と整理。 ・動画などを有効に利用し、要点だけでもノートにまとめておく。
履修条件	やる気と自己の健康管理 (疲れたら休みましょう) (自分の健康が大前提です)

教科書	コメディカルのための専門基礎分野テキスト「医学概論 改訂8版」 中外医学社
参考書	Web サイトの利用 : 玉塾 出直し看護塾 理学療法士国家試験対策シリーズ など 医療、医学情報 : 新聞、NHK (サイエンスなど)

科目名	病理学概論	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	熊谷 謙治 (長崎北徳洲会病院、医学博士 整形外科医師)				
	(実務経験：有) 病理学は大学院在籍時および留学時に研鑽を重ね、その間厚労省認定の人体解剖、病理解剖および司法解剖の資格を取得。加えて医師としての臨床経験をもとに病理学概論の指導にあたる。				
科目担当者	熊谷 謙治				
学 科	作業療法学科	学 年	1		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 (主題)	病理学概論
授業の到達目標	国家試験レベルへの到達

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	総論	熊谷
第2回	病因論	〃
第3回	病理学的変化 (細胞障害・代謝障害)	〃
第4回	病理学的変化 (炎症・修復・再生・線維化)	〃
第5回	病理学的変化 (変性疾患)	〃
第6回	病理学的変化 (腫瘍)	〃
第7回	病理学的変化 (循環器疾患・骨関節疾患)	〃
第8回	感染・消毒	〃

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input type="checkbox"/> 小テスト ( %) <input type="checkbox"/> レポート ( %) <input type="checkbox"/> その他( ) ( %)
準備学習 学習へのアドバイス	
履修条件	

教科書	「図解 ワンポイント病理学」(岡田英吉、サイオ出版)
参考書	「標準病理学」,

科目名	整形外科学 1	開講年度	2026	期	後期
科目担当責任者	熊谷 謙治 (長崎北徳洲会病院、医学博士 整形外科医師)				
	(実務経験：有) 整形外科、リハビリテーション科医師として病院に勤務 (整形外科専門医およびリハビリテーション学会の臨床認定医取得)。臨床経験をもとに整形外科学の指導にあたる。				
科目担当者	熊谷 謙治				
学 科	作業療法学科	学 年	1		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2
		時間数	30		

授業の概要 (主題)	整形外科学一般
授業の到達目標	整形外科学 国家試験受験レベル到達

授業計画		
回数	内 容	担 当
第 1 回	総論 歴史 基礎	熊谷
第 2 回	診断学	〃
第 3 回	治療総論 外傷学総論	〃
第 4 回	外傷学各論 上肢 装具(義肢)	〃
第 5 回	外傷学各論 下肢	〃
第 6 回	〃	〃
第 7 回	下肢外傷	〃
第 8 回	脊椎・脊髄の損傷	〃
第 9 回	上肢の疾患	〃
第 10 回	下肢の疾患	〃
第 11 回	脊髄疾患	〃
第 12 回	骨端症	〃
第 13 回	骨・関節の感染症	〃
第 14 回	関節リウマチと類縁疾患	〃
第 15 回	問題演習 (まとめ)	〃

成績評価の方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験	<input type="checkbox"/> 実技試験	<input type="checkbox"/> 実習評価	<input type="checkbox"/> 小テスト	<input type="checkbox"/> レポート	<input type="checkbox"/> その他
(評価の基準)	( 100%)	( %)	( %)	( %)	( %)	( %)
準備学習 学習へのアドバイス						
履修条件						

教科書	標準整形外科
参考書	

科目名	神経内科学 1	開講年度	2026	期	後期		
科目担当責任者	河合 正行 (元長崎リハビリテーション学院 専任講師) (実務経験 : 有) 国立病院機構にて理学療法士として勤務。その臨床経験をもとに、神経内科疾患各種の病態・障害像について指導する。						
科目担当者	河合 正行						
学 科	作業療法学科	学 年	1				
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業の概要 (主題)	リハビリテーション専門職として必要な神経内科学の概念と基礎知識をグループで学習する。決められた範囲について自分たちで調べて分かりやすく講義する。他の学生にどう分かりやすく伝えられるか、1コマ1時間程度に上手にまとめる。
授業の到達目標	1)医学用語の意味を理解し、正しく記載でき適切に使用できる 2)診察所見や検査所見について、正常と異常を区別できる 3)主要な神経内科疾患や外傷で、その病態・症状・所見・治療を理解する 4)神経内科学で学んだ知識を、他の科目と関連づけて理解する 5)国家試験における神経内科分野の問題が解ける

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	総論：中枢神経系の解剖と機能(14-31)	河合
第2回	総論：神経学的診断と評価(35-50)	〃
第3回	総論：神経学的検査法(51-67)	〃
第4回	神経症候学：意識障害・脳死・植物状態・頭痛・めまい(71-78)	〃
第5回	神経症候学：運動麻痺・錐体路徴候・不随意運動・運動失調(79-98)	〃
第6回	感覚障害・高次脳機能障害・失語症(99-119)	〃
第7回	高次脳機能障害・失認・失行・記憶障害(120-142)	〃
第8回	注意障害・遂行機能障害・構音障害・嚥下障害・脳外科領域(143-169)	〃
第9回	神経疾患各論 (脳血管障害) (173-203)	〃
第10回	各論 (認知症・脳腫瘍・外傷性脳損傷) (204-237)	〃
第11回	各論 (脊髄疾患・変性疾患・脱髄疾患) (238-261)	〃
第12回	各論 (錐体外路の変性疾患・末梢神経障害・てんかん) (262-287)	〃
第13回	各論 (筋疾患・感染性疾患・中毒性疾患・小児疾患・廃用) (288-350)	〃
第14回	神経内科学のまとめ(スライド講義)	〃
第15回	臨床筋電図のとりかた (デモンストレーション) 日本光電	〃
第16回	授業全体のまとめ (スライド講義)	〃

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他( ) ( 100% ) ( % ) ( % ) ( % ) ( % ) ( % )
準備学習 学習へのアドバイス	正しく専門用語や医療用語を使い、できるだけ分かりやすく説明できるよう調べ、分からないことは積極的に質問をするように。
履修条件	定期試験には国試過去問から出題するのでなぜこの回答なのか説明できるように。

教科書	標準理学療法学・作業療法学 (神経内科学) 第5版編集川平和美 医学書院
参考書	ベッドサイドの神経の診かた (南山堂)

科目名	内科学1	開講年度	2026	期	後期
科目担当責任者	講師調整中 (所属 )				
	(実務経験：有・無) 市立大村市民病院に依頼中				
科目担当者	講師調整中				
学 科	作業療法学科	学 年	1		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2
		時間数	30		

授業の概要 (主題)	内科学 ～症候学、診断学、臓器別各論～
授業の到達目標	1. 内科学とリハビリテーション医療についての理解を深める 2. 各臓器の働きや、主要な疾患概念を理解し、疾患を持つ患者のリハビリテーションについて学習する

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	内科学総論／診断と治療の実際：医療面接	講師調整中
第2回	診断と治療の実際：診察と臨床検査	〃
第3回	循環器疾患①	〃
第4回	循環器疾患②	〃
第5回	呼吸器疾患	〃
第6回	消化器疾患	〃
第7回	肝胆膵疾患	〃
第8回	血液・造血器疾患	〃
第9回	代謝性疾患	〃
第10回	内分泌疾患	〃
第11回	腎・泌尿器疾患①	〃
第12回	腎・泌尿器疾患②	〃
第13回	アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症	〃
第14回	感染症	〃
第15回	症候学	〃

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 ( 100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( % ) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( % ) <input type="checkbox"/> 小テスト ( % ) <input type="checkbox"/> レポート ( % ) <input type="checkbox"/> その他( ) ( % )
準備学習 学習へのアドバイス	復習を積極的に行うこと。
履修条件	

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学
参考書	

科目名	精神医学1	開講年度	2026	期	後期		
科目担当責任者	鎌田 秀一（所属 日見中央病院 作業療法士） （実務経験：有）精神科領域の作業療法士として、臨床現場での経験を活かし指導にあたる						
科目担当者	鎌田 秀一（所属 日見中央病院 作業療法士） 中野 心介（大村共立病院 精神保健指定医）						
学 科	作業療法学科	学 年	1				
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業の概要 （主題）	1) 臨床症状的視点・社会適応的視点からみた各精神障害の自然史 2) 各精神障害の臨床経過・転帰に影響を及ぼす治療法、治療環境、治療促進・阻害要因 3) 各精神障害の各臨床ステージにおける症状群から患者の機能障害、活動・活動制限、参加・参加制約などの系統的な評価について概説する。
授業の到達目標	1) 各精神障害の精神症状が説明できる。 2) 各精神障害の臨床経過が説明できる。 3) 各精神障害の治療法が説明できる。 4) 各精神障害の社会的転帰が説明できる。 5) 臨床実践に必要な法律が説明できる。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第1・2回	精神医学の概念と関連領域（精神症状の分類を含む）	鎌田
第3・4回	統合失調症 病因、基本症状、臨床経過、治療、臨床経過と転帰	〃
第5・6回	器質性精神障害（認知症を主とし、病因、基本症状、臨床経過 治療、転帰）	〃
第7回	気分障害 病因、基本症状、臨床経過	中野
第8回	気分障害 治療、転帰	〃
第9・10回	神経症性障害、ストレス関連障害および行動症候群、てんかんに関する病因、基本症状、臨床経過、治療、転帰	〃
第11回	精神作用物質・その他使用による精神および行動の障害 病因、基本症状、臨床経過	〃
第12回	成人のパーソナリティおよび行動の障害 基本症状、臨床経過	〃
第13・14回	児童・思春期の精神障害 基本症状、臨床経過	〃
第15回	包括的治療（薬物療法、心理社会的療法など）	〃
第16回	法律（精神保健福祉法など）	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input type="checkbox"/> 小テスト ( %) <input type="checkbox"/> レポート ( %) <input type="checkbox"/> その他( ) ( %)
準備学習 学習へのアドバイス	教科書等で予備知識を持つこと。
履修条件	必修科目である。

教科書	太田保之・上野武治(編集)：学生のための精神医学第3版，医歯薬出版株式会社，2014，
参考書	必要時、授業で紹介する。

科目名	小児科学	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	講師調整中（長崎医療センター 小児科）				
	（実務経験：有）				
科目担当者					
学 科	作業療法学科	学 年	1		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
		時間数	15		

授業の概要 （主題）	小児科の総論・よくある疾患等の基本的な知識を身につける。
授業の到達目標	小児の成長・発達を理解する。 小児のよくある疾患を理解する。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第1回	小児の成長・発達・栄養	講師調整中
第2回	小児の診断・治療総論	〃
第3回	新生児疾患、小児の急性疾患	〃
第4回	小児の急性疾患・事故	〃
第5回	小児でよく見る症状	〃
第6回	健診異常・慢性疾患	〃
第7回	障害を持つ子ども	〃
第8回	復習	〃
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他(        ) ( 100% )    (    % )    (    % )    (    % )    (    % )    (    % )
準備学習 学習へのアドバイス	ポイントは適宜授業中に伝えますので、メモを取って下さい。
履修条件	授業に出席すること

教科書	なし
参考書	なし

科目名	救急救命医学	開講年度	2026	期	後期
科目担当責任者	講師調整中（所属 ）				
	（実務経験：有・無） 長崎医療センターに依頼中				
科目担当者					
学 科	作業療法学科	学 年	1		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
		時間数	15		

授業の概要 （主題）	救急処置と看護を学ぶ
授業の到達目標	主要病態に対する救急処置と看護に関する知識を習得する

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	救急医療体制	講師調整中
第2回	救急患者の特徴	〃
第3回	院内急変時における対応	〃
第4回	在宅急変時における対応	〃
第5回	救急時の看護技術①	〃
第6回	救急時の看護技術②	〃
第7回	主要病態に対する救急処置と看護 ①	〃
第8回	主要病態に対する救急処置と看護 ②	〃
第9回	普通救命講習Ⅱ（実技）	専任講師
第10回	普通救命講習Ⅱ（実技）	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験	<input type="checkbox"/> 実技試験	<input type="checkbox"/> 実習評価	<input type="checkbox"/> 小テスト	<input type="checkbox"/> レポート	<input type="checkbox"/> その他（ ）
	（100%）	（ %）	（ %）	（ %）	（ %）	（ %）
準備学習 学習へのアドバイス						
履修条件						

教科書	救急看護学
参考書	

科目名	リハビリテーション概論 1	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	小谷 泉（長崎リハビリテーション学院） （実務経験： <input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無）病院にて療法士として勤務。臨床現場の経験をもとにリハビリテーション概論 1 を学ぶために必要な基礎知識について講義する。				
科目担当者	小谷 泉・田中 剛・河野 武・橋口 将大（長崎リハビリテーション学院） 松尾 みき（大村市医師会訪問看護ステーション 作業療法士） 山本 真司（日浦病院 理学療法士）				
学 科	作業療法学科	学 年	1		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2
		時間数	30		

授業の概要 （主題）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーション専門職の学びに必要な共通かつ基本的な概念について学習する。</li> <li>・リハビリテーションチームにおけるそれぞれの専門職の役割を学習する。</li> <li>・リハビリテーションの流れを知り、これからの学習における動機づけを行う。</li> </ul>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションとは何か説明できる</li> <li>・障害の捉え方について知り、考えることができる</li> <li>・リハビリテーションの流れを理解することができる</li> </ul>

授業計画		
回数	内 容	担当
1	リハビリテーションとは？（定義や歴史）	小 谷
2	ノーマライゼーション、IL 運動	小 谷
3	障害の捉え方 ①国際生涯分類(ICIDH)と国際生活機能分類(ICF) ②障害受容	小 谷
4	リハビリテーションの分類	小 谷
5	予防医学の理解とリハビリテーション	小 谷
6	多職種連携の理解、チーム医療論、カンファレンス	小 谷
7	リハビリテーションを支える社会保障制度(1)	小 谷
8	リハビリテーションを支える社会保障制度(2)	小 谷
9	理学療法ならびに理学療法士について	橋 口
10	言語聴覚療法ならびに言語聴覚士について	河 野
11	作業療法ならびに作業療法士について	田 中
12	地域包括ケアシステム 総論①	松 尾
13	地域包括ケアシステム 総論②	松 尾
14	地域包括ケアシステム 各論①	山 本
15	地域包括ケアシステム 各論②	山 本

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他(        ) ( 80% )        (    % )        (    % )        (    % )        ( 20% )        (    % )
準備学習 学習へのアドバイス	先入観にとらわれず、思考を柔軟にして授業に臨んでください。
履修条件	リハビリテーション概論の見学は、履修の必須条件です。

教科書	随時、資料を配布します。
参考書	

科目名	社会保障制度論	開講年度	2026	期	後期		
科目担当責任者	柿田 京子（元介護老人保健施設 うぐいすの丘 副施設長，理学療法士）						
	（実務経験：有） 介護老人保健施設の副施設長として従事された経験をもとに、社会保障制度の指導にあたる。						
科目担当者	柿田 京子（元介護老人保健施設 うぐいすの丘 副施設長，理学療法士） 飯田 陽子（和仁会病院 作業療法士） 草野 大輔（社会福祉法人 電腦工房 施設長）						
学 科	作業療法学科			学 年	1		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 （主題）	介護老人保健施設、通所リハビリテーション、地域包括ケアシステムと作業療法士の役割について学ぶ。
授業の到達目標	人間の健康（生命）・生活・人生の観点とわが国の社会保障制度の概念及び保健、医療、福祉領域の職種が如何に連携しあって利用者の意思決定と生活を支える体制を展開してゆくのかを学び、特にその中での作業療法士の役割を理解する。

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	回復期リハビリテーションについて	柿田
第2回	〃	〃
第3回	人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活及び人間と社会の関わりについて理解する。	柿田
第4回	〃	〃
第5回	わが国に存在する社会保障制度を理解する。	草野
第6回	作業療法士の役割について	〃
第7回	就職支援について	飯田
第8回	〃	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他(        ) ( 100% )    (    % )    (    % )    (    % )    (    % )    (    % )
準備学習 学習へのアドバイス	包括的視野で基本となるものにとらえ、判断力を向上させていく
履修条件	

教科書	
参考書	

科目名	作業療法学概論	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	坪田 優一（長崎リハビリテーション学院）				
	（実務経験：有） 病院にて作業療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに指導にあたる。				
科目担当者	坪田 優一・葉山 靖明（NPO法人学びあい）				
学 科	作業療学科	学 年	1		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	30

授業の概要 （主題）	「作業療法とはどのような専門職か」を深く理解するために、定義や事例を通じた学習、哲学や歴史の理解、具体的な実践プロセスを学んだうえでグループワークを通じて一人一人の作業療法観を確立する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法の目的、および対象について説明できる。</li> <li>2. 作業療法の定義について内容を説明できる。</li> <li>3. 作業療法の治療の流れと用いられる手段を説明できる。</li> <li>4. ICF（国際生活機能分類）を理解できる。</li> <li>5. 世界と日本の作業療法の歴史を知る。</li> </ol>

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	作業療法の定義、治療的意味合い、健康の概念を考える	坪田
第2回	作業療法の定義、治療的意味合い、健康の概念を考える	坪田
第3回	Word/Excelの基本的な使用方法	坪田
第4回	作業療法の歴史 「作業療法とは」どのような専門職か、事例を通して作業療法の視点を学ぶ	坪田
第5回	障害の理解、ICF（国際生活機能分類）と作業療法	坪田
第6回	障害の理解、ICF（国際生活機能分類）と作業療法	坪田
第7回	作業療法の流れ 作業療法計画立案と作業療法実施	坪田
第8回	基本的な情報管理について	坪田
第9回	領域別作業療法	坪田
第10回	領域別作業療法	坪田
第11回	病期別作業療法の実際	坪田
第12回	病期別作業療法の実際	坪田
第13回	作業療法について 自己の体験からの講話	葉山
第14回	作業療法について 自己の体験からの講話	葉山
第15回	臨床実習1 報告会（I期）	坪田
第16回	臨床実習1 報告会（I期）	坪田

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他（    ） (90%)            (    %)            (    %)            (    %)            (10%)            (    %)
準備学習 学習へのアドバイス	専門用語が多数出るため、復習を行うように
履修条件	

教科書	・標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論
参考書	

科目名	キャリア教育学	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	眞浦 健人（長崎リハビリテーション学院）				
	（実務経験：有） 病院にて作業療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに指導にあたる。				
科目担当者	眞浦 健人、増山 優貴（山のサナーレ・クリニック）、廣澤 萌里（Fit LIFE DESING あいのわ）				
学 科	作業療法学科			学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 （主題）	社会的に自立するため、必要な職業人としての能力を身に付ける事を目的とする。 作業療法士として働くことの意義や職業観を学ぶことで、意欲的に仕事に取り組む姿勢を身に付ける。
授業の到達目標	・基本的な iPad の使い方を学び、プレゼンテーションの作成が出来るようになる。 ・作業療法学科学生としての各々のパーソナリティタイプを把握し、キャリアアンカーを自覚することで、今後の学習のモチベーションとする

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	精神障害分野における作業療法の魅力	増山
第 2 回	精神障害分野における作業療法の魅力	増山
第 3 回	身体障害分野における作業療法の魅力	廣澤
第 4 回	身体障害分野における作業療法の魅力	廣澤
第 5 回	発表資料の作成（グループワーク）	眞浦
第 6 回	発表資料の作成（グループワーク）	眞浦
第 7 回	発表資料の作成（グループワーク）	眞浦
第 8 回	プレゼン大会	眞浦

成績評価の方法 （評価の基準）	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他（発表） （ % ） （ % ） （ % ） （ % ） （ % ） （ 100% ）
準備学習 学習へのアドバイス	講義を良く聴き、課題作成に活かしてください。成績はグループごとに出ます。 グループワークは協力して取り組むように。
履修条件	

教科書	
参考書	

科目名	基礎作業学概論	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	桑原 由喜 (長崎リハビリテーション学院)				
	(実務経験：有) 病院にて作業療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに指導にあたる。				
科目担当者	桑原 由喜				
学 科	作業療法学科	学 年	1		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	30

授業の概要 (主題)	治療技術である作業活動の理解、それが人に与える影響や作業活動と人との相互関係等、作業の基本的な理解をすることを目標とする。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法で用いる作業について、その種類・定義・階層について述べる事ができる</li> <li>・作業の特性について、述べる事ができる</li> <li>・各理論について述べる事ができる</li> </ul>

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	作業科学について	桑原
第2回	作業の定義	桑原
第3回	作業の意味 (アイデンティティ)	桑原
第4回	作業の意味 (生活の構造化)	桑原
第5回	作業の主観的意味	桑原
第6回	作業の類型化 (仕事・遊び・休息)	桑原
第7回	作業の類型化 (義務と願望)	桑原
第8回	作業の視点 (作業の階層性)	桑原
第9回	作業的存在 (役割)	桑原
第10回	ライフステージと作業	桑原
第11回	ライフステージと作業	桑原
第12回	作業療法の理論 (人間作業モデル)	桑原
第13回	作業療法の理論 (作業質問紙)	桑原
第14回	AMPS	桑原
第15回	作業療法の理論 (カナダ作業遂行モデル)	桑原

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (60%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input type="checkbox"/> 小テスト ( %) <input checked="" type="checkbox"/> 提出資料 (40%) <input type="checkbox"/> その他0 (%)
準備学習 学習へのアドバイス	<p>ディスカッションでは積極的に発言することを求む。</p> <p>学院図書館で参考書に記載してある書籍が閲覧できるため、可能な限り読んでおくこと。</p>
履修条件	

教科書	配布資料
参考書	<p>「作業」って何だろう 吉川ひろみ 医歯薬出版</p> <p>作業の捉え方と評価・支援技術 日本作業療法士会監修 医歯薬出版株式会社</p> <p>COPM・AMPSスターティングガイド 吉川ひろみ 医学書院</p>

科目名	基礎作業学 技法・分析 1		開講年度	2026	期	前後期	
科目担当責任者	田中 剛 (長崎リハビリテーション学院)						
	(実務経験: <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無) 病院にて作業療法士として勤務。現場の経験をもとに基礎作業学 技法・分析 1 について指導する。						
科目担当者	坪田 優一・田中 剛 (長崎リハビリテーション学院) 外来講師 (社会就労センター三彩の里 職業指導員)						
学 科	作業療法学科				学 年	1	
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	60

授業の概要 (主題)	作業療法のアクティビティについて体験を通して学ぶ。 体験を通して作業分析・動作分析を行い、作業工程、道具および作業の特徴を知る。 作業療法での治療的応用を考察する。
授業の到達目標	① 道具・材料の名称がわかり、適切に使用することができる ② 作業工程と技法を説明することができる ③ 作業の特徴を述べるすることができる ④ 治療的応用と効用、身体的・心理的リスクについて理解する

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	作業の魅力・作業分析とは?	田中	16	塗り絵	坪田
2	デコパージュ	田中	17	マクラメ	坪田
3	デコパージュ	田中	18	マクラメ	坪田
4	切り絵	田中	19	革細工	坪田
5	切り絵	田中	20	革細工	坪田
6	丸め手芸	田中	21	革細工	坪田
7	丸め手芸	田中	22	革細工	坪田
8	ペーパークイリング	田中	23	革細工	坪田
9	ペーパークイリング	田中	24	革細工	坪田
10	タイルモザイク	田中	25	陶芸	外来講師
11	タイルモザイク	田中	26	陶芸	外来講師
12	タイルモザイク	田中	27	陶芸	外来講師
13	マーブリング	坪田	28	陶芸	外来講師
14	マーブリング、折り染め	坪田	29	陶芸	外来講師
15	塗り絵	坪田	30	陶芸	外来講師

成績評価の方法 (評価の基準)	<input type="checkbox"/> 定期試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input type="checkbox"/> 小テスト ( %) <input type="checkbox"/> レポート ( %) <input checked="" type="checkbox"/> その他(作品等) (100%)
準備学習 学習へのアドバイス	アクティビティの深みを知るために講義は積極的に参加し楽しみましょう。
履修条件	

教科書	
参考書	必要に応じ資料を提供します。

科目名	医療倫理学	開講年度	2026	期	後期
科目担当責任者	三原 和行 (元佐世保国際通り病院 作業療法士)				
	(実務経験:有) 作業療法士としてリハビリテーション部の責任者として従事された経験をもとに医療倫理学の指導にあたる				
科目担当者	三原 和行 (元佐世保国際通り病院 リハビリテーション科 科長) 前田一明 (瀧本株式会社 人事総務部 人事総務課)				
学 科	作業療法学科	学 年	1		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 (主題)	この科目は対象者の人生を豊かにするために個々の作業療法士が質の高い作業療法を提供できるようになることを目的としている。
授業の到達目標	医療安全管理を理解し、作業療法対象者および自身の安全を確保することの重要性を理解する

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	情報のマネジメント 情報とは、チーム医療・多職種連携とコミュニケーション	三原
第2回	情報のマネジメント 診療情報と記録の仕方、情報の取り扱いの注意事項	三原
第3回	医療安全のマネジメント 医療におけるリスクマネジメントと医療事故	三原
第4回	医療安全のマネジメント 事故発生のメカニズムと防止策	三原
第5回	医療安全のマネジメント ヒューマンエラーのメカニズム、コミュニケーションスキル	三原
第6回	医療安全のマネジメント 危険予知トレーニング (KYT) 理論と実技	三原
第7回	作業療法士の職業理論 倫理とは、職業倫理と研究倫理	三原
第8回	作業療法士の職業理論 患者・対象者の権利と尊厳	三原
第9回	SNS の危険性、情報発信の注意点について、著作権と肖像権、臨床実習における患者の個人情報の取り扱い方など法的知識の教授	前田

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input type="checkbox"/> 小テスト ( %) <input type="checkbox"/> レポート ( %) <input type="checkbox"/> その他( ) ( %)
準備学習 学習へのアドバイス	事故を未然に防止するためのメカニズムや予防法を身に着け、セラピストとして最も基本的な作業療法対象者の安全を保証し、尊厳を保つという視点をもってください
履修条件	

教科書	大庭潤平；作業療法管理学 入門、医歯薬出版
参考書	看護の統合と時実践②医療安全 メディカ出版 ナースのための危険予知トレーニング メディカ出版

科目名	作業療法評価学1	開講年度	2026	期	後期		
科目担当責任者	眞浦 健人 (長崎リハビリテーション学院) (実務経験 : 有) 病院で作業療法士として勤務。臨床の経験を基に作業療法評価学1について指導する。						
科目担当者	桑原 由喜・田中 剛・眞浦 健人						
学 科	作業療法学科	学 年	1				
必修/選択	必修	授業の形態	講義・実技	単位数	2	時間数	60

授業の概要 (主題)	まず、総論の中で作業療法実践における「作業療法評価」の位置づけを確認した上で、評価手法の基本的原則を習得する。その上で、バイタル、形態測定、疼痛、反射、感覚、筋緊張、ROM について実技を交えて習得する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法を実践する上で評価することの意義・目的を理解する</li> <li>・各種の評価法の意義と目的を理解し、適切な評価法を選択する能力を身に着ける</li> <li>・各種の評価法について説明し、実施できる</li> </ul>

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	面接・観察法	桑原	16	筋緊張	田中
2	面接・観察法 (演習)	桑原	17	ROM 測定 (講義)	眞浦
3	意識の評価およびバイタルサインの測定	桑原	18	ROM 測定 (講義)	眞浦
4	意識の評価およびバイタルサインの測定	桑原	19	ROM 測定 実技 上肢	眞浦
5	形態測定 (四肢計測)	桑原	20	ROM 測定 実技 上肢	眞浦
6	形態測定 (四肢計測)	桑原	21	ROM 測定 実技 上肢 (まとめ)	眞浦
7	排泄機能検査	桑原	22	ROM 測定 実技 手指	眞浦
8	嚥下機能検査	桑原	23	ROM 測定 実技 手指	眞浦
9	反射検査	田中	24	ROM 測定 実技 手指 (まとめ)	眞浦
10	反射検査	田中	25	ROM 測定 実技 下肢	眞浦
11	感覚	田中	26	ROM 測定 実技 下肢	眞浦
12	感覚	田中	27	ROM 測定 実技 下肢 (まとめ)	眞浦
13	感覚	田中	28	ROM 測定 実技 体幹	眞浦
14	感覚	田中	29	ROM 測定 実技 体幹	眞浦
15	筋緊張	田中	30	ROM 測定 実技 体幹 (まとめ)	眞浦

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (60%) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (30%) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input type="checkbox"/> 小テスト ( %) <input checked="" type="checkbox"/> レポート ( 7%) <input checked="" type="checkbox"/> その他( 授業中の実技演習 ) ( 3%)
準備学習 学習へのアドバイス	評価は作業療法のみならず、リハビリテーション実践において土台となる必要不可欠なプロセスです。問題点の抽出や治療プログラム立案につなげ、対象者の利益を実現できるよう、各種評価法の習得に励んで下さい。
履修条件	
教科書	標準作業療法学 (専門分野) 作業療法評価学 (医学書院) 実践リハ評価マニュアルシリーズ 臨床 ROM (ヒューマン・プレス) ベッドサイドの神経の診かた (南山堂)
参考書	神経診察クローズアップ (MEDICAL VIEW)

科目名	治療学1 (総論)	開講年度	2026	期	後期		
科目担当責任者	講師調整中						
	(実務経験：有・無)						
科目担当者							
学 科	作業療法学科	学 年	1				
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 (主題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法アプローチについて概観しその視点を養う</li> <li>・文献抄読を行い文献活用の意義を理解する</li> </ul>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トップダウンアプローチとボトムアップアプローチの特長を挙げることができる。</li> <li>・ICF の概念及び分類の基本的知識を理解し、教員の補助により ICF 分類ができる。</li> <li>・MTDLP の聞き取り面接および工程分析を理解する。</li> <li>・文献抄読では学術論文を読み、内容のまとめと発表ができる。他の発表に対して質問や意見を述べるができる。</li> </ul>

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	トップダウンアプローチとボトムアップアプローチ	講師調整中
第2回	文献抄読の論文検索 (メディカルオンライン、図書館)、抄読	〃
第3回	ICF 分類	〃
第4回	ICF 分類	〃
第5回	MTDLP (聞き取り面接)	〃
第6回	MTDLP (工程分析)	〃
第7回	文献抄読発表会	〃
第8回	文献抄読発表会	〃

成績評価の方法 (評価の基準)	<input type="checkbox"/> 定期試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input type="checkbox"/> 小テスト ( %) <input type="checkbox"/> レポート ( %) <input type="checkbox"/> その他(文献抄読他) ( %)
準備学習 学習へのアドバイス	文献抄読は別紙の手順に沿って進めてください。 締め切りを厳守すること。
履修条件	

教科書	
参考書	ひとと作業・作業活動 新版, 三輪書店, 山根寛

科目名	アニマル介在療法	開講年度	2026	期	後期
科目担当責任者	藤川 勇 (ドッグトレーナー)				
	(実務経験:無) ドッグスクールを開業して代表を務めており、経験をもとにアニマルセラピーの指導にあたる				
科目担当者	藤川 勇				
学 科	作業療法学科			学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 (主題)	動物介在療法 (アニマルセラピー) について
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物介在療法を科学的に理解する。</li> <li>動物と人間の関わりについて理解する。</li> <li>動物の行動と強化について理解する。</li> </ul>

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	自己紹介 世界の動物と人の暮らし アニマルセラピーの動画紹介	藤川
第2回	動物介在介入の定義、科学について	藤川
第3回	動物介在介入の定義、科学について	藤川
第4回	動物福祉と動物のボディランゲージ	藤川
第5回	学習理論と刺激	藤川
第6回	行動強化の体験と行動強化の実践	藤川
第7回	動物介在療法の進め方	藤川
第8回	まとめ	藤川

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (70%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (20%) <input type="checkbox"/> レポート ( %) <input checked="" type="checkbox"/> その他(授業態度) (10%)
準備学習 学習へのアドバイス	配布資料に目を通しておくこと、身近にいる動物の行動や仕草(ストレスサイン)を観察する
履修条件	特になし

教科書	
参考書	

科目名	日常生活活動学 1	開講年度	2026	期	後期		
科目担当責任者	坪田優一（長崎リハビリテーション学院） （実務経験：有）病院にて作業療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに指導にあたる。						
科目担当者	坪田優一						
学 科	作業療法学科	学 年	1				
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	45

授業の概要 （主題）	作業療法は障害によって失われた生活を支援し、「生活行為の再建」という理念を持つ。では、生活行為と深く結びつく「日常生活活動」とは何を指すのか。当科目では、日常生活活動の基本的な概念と、作業療法で扱う日常生活活動別の問題点と援助の視点および評価について学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常生活活動の基本的な概念を理解する。</li> <li>2. 作業療法で扱う日常生活活動の範囲を理解する。</li> <li>3. 日常生活活動別の障害と援助の視点を学ぶ。</li> <li>4. 日常生活活動評価の解釈と作業療法の視点について理解する。</li> </ol>

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	日常生活活動（ADL）の概念と範囲	坪田	13	障害体験 報告会	坪田
2	生活行為とQOL	坪田	14	障害体験 報告会	坪田
3	障害体験準備	坪田	15	ADLの評価について	坪田
4	障害体験準備	坪田	16	ADLの評価について	坪田
5	基本動作、リハビリテーション支援機器一杖・車椅子の名称および使用方法	坪田	17	「食事動作」「排泄動作」「起居・移動活動」の特徴・障害・援助の視点	坪田
6	基本動作、リハビリテーション支援機器一杖・車椅子の名称および使用方法	坪田	18	「更衣活動」「整容活動」「入浴活動」の特徴・障害・援助の視点	坪田
7	基本動作、リハビリテーション支援機器一杖・車椅子の使用法・実技	坪田	19	更衣活動「整容活動」「入浴活動」の特徴・障害・援助の視点	坪田
8	基本動作、リハビリテーション支援機器一杖・車椅子の使用法・実技	坪田	20	「コミュニケーション活動」「健康管理」「社会活動」の特徴・障害・援助の視点	坪田
9	障害体験準備—障害設定	坪田	21	同上	坪田
10	障害体験準備—内容の最終確認	坪田	22	「家庭生活活動」の特徴・障害・援助の視点	坪田
11	障害体験①	坪田	23	まとめ	坪田
12	障害体験②	坪田			

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他（発表等） （ 50% ）    （ 40% ）    （ % ）    （ % ）    （ % ）    （ 10% ）
準備学習 学習へのアドバイス	授業では、グループワークの活用、実際の支援機器の使用など実践が主となります。ADLは身体・精神・発達・老人全ての領域での基本となりますので、自らの積極的な参加、学習を心掛けて下さい。
履修条件	

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15 レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト ADL 実習</li> <li>・理学療法学テキストV 日常生活活動（ADL）</li> </ul>
参考書	

科目名	福祉用具機器関連	開講年度	2026	期	後期
科目担当責任者	内田 智子 (長崎リハビリテーション学院)				
	(実務経験：有) 病院にて作業療法士として勤務。臨床現場での経験をもとに指導にあたる。				
科目担当者	内田 智子				
学 科	作業療法学科	学 年	1		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
		時間数	15		

授業の概要 (主題)	福祉用具機器の知識を深める。臨床での福祉用具機器活用場面の見学を通して、福祉用具機器と作業療法士の関わりについて学ぶ。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉用具機器の種類や使用法について学ぶ</li> <li>福祉用具機器と作業療法士の役割について学ぶ</li> </ul>

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第1回	福祉用具機器総論	内田
第2回	福祉用具機器プランニングの流れ	内田
第3回	福祉用具・自助具 (各論)	内田
第4回	福祉用具・自助具 (各論)	内田
第5回	福祉用具・自助具 (各論)	内田
第6回	学外実習 (長崎リハビリテーション病院)	内田
第7回	学外実習 (長崎リハビリテーション病院)	内田
第8回	学外実習 (長崎リハビリテーション病院)	内田

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 ( 80% ) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( % ) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( % ) <input type="checkbox"/> 小テスト ( % ) <input checked="" type="checkbox"/> レポート ( 20% ) <input type="checkbox"/> その他( ) ( % )
準備学習 学習へのアドバイス	福祉用具についての基本的な知識を身につけた上で、学外実習に臨みましょう。
履修条件	必修科目であるので必ず出席すること。

教科書	理学療法学テキストV 日常生活活動 (ADL), 神陵文庫
参考書	

科目名	地域作業療法学概論	開講年度	2026	期	前期		
科目担当責任者	眞浦 健人（長崎リハビリテーション学院）						
	（実務経験：有） 病院にて作業療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに指導にあたる。						
科目担当者	眞浦 健人、畑田 美恵（大村共立病院 作業療法士）						
学 科	作業療法学科	学 年	1				
必修/選択	必修	授業の形態	講義・実習	単位数	1	時間数	30

授業の概要 （主題）	我が国では 2025 年問題を抱え、可能な限り地域における生活の場で支えるということを中心に、介護保険施設等の生活の場の確保、介護保険サービスの機能の充実が望まれている。そういった現状の制度や課題を理解し、入院中心から地域生活中心へと大きな転換期を迎えているなかで、生活の自立と適応を援助する専門職として作業療法士が担うべき役割について理解する。
授業の到達目標	1. 地域リハビリテーション・地域作業療法の理念・役割を理解できる 2. 生活行為向上マネジメントの概要が理解できる 3. 実習を通し、実際場面を見学することで作業療法士の必要性を感じることができる

授業計画		
回数	内 容	担 当
第 1 回	情報リテラシーについて	眞浦
第 2 回	情報リテラシーについて	眞浦
第 3 回	情報リテラシーについて（著作権について）	眞浦
第 4 回	情報リテラシーについて（個人情報の取り扱いについて）	眞浦
第 5 回	地域リハビリテーションとは？	眞浦
第 6 回	地域作業療法とは？	眞浦
第 7 回	地域包括ケアシステムと作業療法	眞浦
第 8 回	地域での作業療法士の役割	眞浦
第 9 回	地域で利用できるサービス、活躍する作業療法士について（グループワーク）	眞浦
第 10 回	地域で利用できるサービス、活躍する作業療法士について（グループワーク）	眞浦
第 11 回	地域で利用できるサービス、活躍する作業療法士について（グループワーク）	眞浦
第 12 回	地域で利用できるサービス、活躍する作業療法士について（グループワーク）	眞浦
第 13 回	発表・まとめ	眞浦
第 14 回	精神科デイケア	畑田
第 15 回	精神科デイケア	畑田

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (80%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input type="checkbox"/> 小テスト ( %) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> その他（発表）(20%)
準備学習 学習へのアドバイス	地域で対象者を支えるためには様々な視点と援助が必要です。この講義で、地域における作業療法士の役割を理解しておきましょう。
履修条件	

教科書	
参考書	作業療法マニュアル 57 生活行為向上マネジメント 作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 地域作業療法学 メジカルビュー 事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 医歯薬

科目名	臨床実習 1	開講年度	2026	期	前後期
科目担当責任者	作業療法学科全教員（長崎リハビリテーション学院）				
	（実務経験：有） 病院で作業療法士として勤務。臨床の経験を基に臨床実習 1 について指導する。				
科目担当者	作業療法学科専任講師				
学 科	作業療法学科	学 年	1		
必修/選択	必修	授業の形態	実習	単位数	2
				時間数	80

授業の概要 （目標）	<p>社会人としての基本的態度を身につけ、作業療法場面の見学を通して対象者とのコミュニケーションを図る。また基本的用語の理解を深める。</p> <p>施設や病院の役割を理解し、地域ケアシステムにおける通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションの役割を理解する。</p>
---------------	--

授業計画		
回数	内 容	担当
2026 年 9 月(5 日間) 2026 年 11 月(5 日間)	実習指導者の指導の下で、作業療法場面の見学を行う。	作業療法学専 科全教員

成績評価の方法 （評価の基準）	実習終了時には指導者による学生の学修成果の評価と実習報告を踏まえ、学校会議にて成績評価を行う。
--------------------	---

準備学習 学習へのアドバイス	<p>臨床実習指導を担当する作業療法士に対して、実習開始前に臨床指導者会議を実施している。</p> <p>この会議では実習の目的・目標等の共通理解を深めることを目的に実施している。</p>
履修条件	

教科書	臨床実習で必要とするすべての専門書
参考書	

令和 8 年度 (2026 年度)

シラバス (授業計画)

作業療法学科 2 年次

科目名	カウンセリング論	開講年度	2026	期	後期
科目担当責任者	城下 未来（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）				
	（実務経験：有）公認心理師・臨床心理士として学校や民間相談機関でのカウンセリングに従事した経験をもとに、対人援助場面において必要なカウンセリングの理論や技法について講義を行う。				
科目担当者	城下 未来				
学 科	作業療法学科	学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
		時間数	15		

授業の概要 （主題）	カウンセリングに関する基本的な理論や技法について学ぶとともに、リハビリテーションにおけるカウンセリングの有用性を理解し、リハ専門職として援助場面におけるカウンセリングの活用について考える機会とする。
授業の到達目標	1. カウンセリングの基本理論や技法について説明できる 2. リハビリテーション場面でのカウンセリングの有用性について理解する 3. カウンセリングの理論や技法について援助場面で応用できる力を養う

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	カウンセリング概説	城下
第2回	カウンセリングマインド（態度、観察事項など）	城下
第3回	カウンセリングの理論	城下
第4回	カウンセリングの技法① 話の聴き方	城下
第5回	カウンセリングの技法② 受容、共感	城下
第6回	カウンセリングの技法③ 質問	城下
第7回	カウンセリングの技法④ 解決志向アプローチ	城下
第8回	カウンセリングの技法⑤ 承認、動機づけ・まとめ	城下

成績評価の方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他 (演習等への取り組み)
(評価の基準)	( 90 %)   (   %)   (   %)   (   %)   (   %)   ( 10 %)
準備学習 学習へのアドバイス	座学だけではなく可能な範囲で演習なども取り入れながら、体験的な学びの機会となるようにしていきたいと思っています。積極的な取り組みを望みます。
履修条件	

教科書	系統看護学講座 基礎分野 心理学（医学書院）
参考書	適宜紹介します

科目名	保健体育 2	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	白川 美和 (所属 向陽学園 向陽高校 )				
	(実務経験：無) 高校教員としての経験をもとに、学生指導にあたる。				
科目担当者	白川 美和				
学 科	作業療法学科			学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 (主題)	記録や勝敗にこだわらず、職場の仲間や気の合う仲間とのふれあいを重視し、生涯継続して楽しむことにより、心身の健康に良い影響をおよぼすレクリエーションスポーツに対する社会的ニーズが高まっている。そこで「生涯を通じていつでも、どこでも、誰とでもスポーツに親しむ」ことができるように、団体で行えるスポーツを中心に基本的な知識と実践能力を養うことを目的とする。
授業の到達目標	1、安全・健康を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを確立する。 2、勝敗を競う楽しさや喜びを知る。 3、チームや自己の課題に応じた練習計画や作戦を立て、取り組み方を工夫し考える力をつける。 4、フェアなプレイを大切に、また仲間を尊重できるようにする。

授業計画		
回数	内 容	担当
第1回	オリエンテーション・ルール確認・グループ分け・練習	白川
第2回	選択競技	〃
第3回	選択競技	〃
第4回	選択競技	〃
第5回	選択競技	〃
第6回	選択競技	〃
第7回	選択競技	〃
第8回	選択競技	〃

【変更後】

成績評価の方法 (評価の基準)	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他(出席・態度) (    %)        (    %)        (    %)        (    %)        (    %)        ( 100 %)
準備学習 学習へのアドバイス	出席や受講態度での評価を行いますので、休まないこと。
履修条件	

教科書	
参考書	

科目名	ホスピタリティー論2	開講年度	2026	期	後期
科目担当責任者	田中 美吉子 (所属 合同会社ヒューマンナガサキ)				
	(実務経験：有) 多くの企業や学校で接遇講座やマナーレッスンの講義を務め、長年の職務経験を活かして指導にあたる				
科目担当者	田中 美吉子				
学 科	作業療法学科	学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 (主題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間とのコミュニケーション・職場におけるビジネスマナーについて</li> <li>・自分とのコミュニケーション (感情コントロール) について</li> <li>・生活や人生の節目に活かすマナー (冠婚葬祭、お見舞いのマナーなど)</li> </ul>
授業の到達目標	状況に応じたコミュニケーション力を養う。

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	職場のルールとビジネスマナー、報告・連絡・相談、指示命令の受け方	田中
第2回	病棟、訪室、エレベーター乗降りのマナー、席次 (上座&下座)	田中
第3回	ご高齢者とのコミュニケーション、上手な断り方、プライバシーへの配慮	田中
第4回	4つのソーシャルスタイル別コミュニケーション	田中
第5回	実習の振り返りと医療現場におけるホスピタリティについて	田中
第6回	アンガーマネジメント (医療・介護の現場に求められる感情コントロール法)	田中
第7回	クレーム&苦情対応、事例検討	田中
第8回	職場の冠婚葬祭、お見舞いのマナー、 総合試験	田中

成績評価の方法 (評価の基準)	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他(学習態度) ( 40% )    (    %)    ( 30% )    (    )    (    %)    (30%)
準備学習 学習へのアドバイス	授業への取組姿勢、態度、聴き方、他者との関わり方すべてを評価対象とします。 接遇マナーは習慣です。日常生活でも常に意識しましょう。
履修条件	

教科書	配布資料
参考書	

科目名	解剖学実習		開講年度	2026	期	前期	
科目担当責任者	眞浦 健人（長崎リハビリテーション学院）						
	（実務経験：有）病院・介護施設にて作業療法士として勤務。現場の経験をもとに解剖学実習について指導する。						
科目担当者	眞浦 健人・内田 智子（長崎リハビリテーション学院） 原 修平（宮崎病院 リハビリテーション科マネージャー 作業療法士）						
学 科	作業療法学科				学 年	2	
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	45

授業の概要 （主題）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神経系、脈管系の機能と構造を再学習する。（眞浦）</li> <li>・消化呼吸器系、泌尿生殖器系、内分泌腺、感覚器の機能と構造を再学習する。（内田）</li> <li>・人体の基本的構造（骨格、筋、人体）を理解し、各部を触って確認することで触診技術の向上を図る（原）</li> </ul>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験と同程度の問題について正答を導き出す力をもつ（眞浦・内田）</li> <li>・骨格、靭帯、筋を理解し、触診ができる力をもつ（原）</li> </ul>

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	上肢骨（肩、鎖骨、上腕骨）	原	13	末梢神経	眞浦
2	上肢骨（橈骨、尺骨、手根骨と指骨）	原	14	伝導路（遠心路）	眞浦
3	上肢筋（肩甲周りの筋）	原	15	伝導路（求心路）	眞浦
4	上肢筋（肘関節、手関節の筋）	原	16	心臓	眞浦
5	下肢の骨（骨盤、大腿骨）	原	17	動脈	眞浦
6	下肢の骨（膝関節、足関節）	原	18	静脈	眞浦
7	下肢の筋（股関節周辺）	原	19	リンパ	眞浦
8	下肢の筋（膝、足関節周辺）	原	20	消化呼吸器系	内田
9	上肢の靭帯	原	21	泌尿生殖器系	内田
10	下肢の靭帯	原	22	内分泌腺	内田
11	中枢神経	眞浦	23	感覚器	内田
12	中枢神経	眞浦			

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他（    ） （100%）    （    %）    （    %）    （    %）    （    %）    （    %）
準備学習 学習へのアドバイス	触診にあたっては、事前に筋・骨格について学習しておくこと 1年生解剖学1～3の復習をすること ※成績は、触診50%、神経20%、脈管10%、内臓20%とします。
履修条件	必修科目なので必ず出席すること。また、真摯な受講態度を望む。

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人体解剖学，南江堂，改訂第42版</li> <li>・運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢、下肢・体幹）MEDICAL VIEW社</li> <li>・病気が見える 7 脳・神経，メディックメディア</li> </ul>
参考書	必要時、授業にて紹介する

科目名	生理学実習	開講年度	2026	期	後期		
科目担当責任者	介田 圭（所属 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 歯科補綴学分野 保存修復学部門 助教） （実務経験：有） 歯科医師として勤務。口腔リハビリテーションにも携わるなどの臨床現場の経験をもとに、講義を行う。						
科目担当者	介田 圭						
学 科	作業療法学科	学年	2				
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	45

授業の概要 （主題）	リハビリテーション専門職として必要な生きた組織や器官を扱う機会が非常に少ないので、生理学実習を体験することで、教科書を読むことによって得た知識を実験で実際体験することにより、生きた知識として身につける。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感覚点の分布やその温度依存性など特性を理解できる</li> <li>2. ウェーバー・フェヒナーの法則とスティーブンスの法則を通してわれわれの感覚の生理学的性質を理解できる</li> <li>3. 感覚器のメカニズムを理解できる</li> <li>4. 骨格筋のはたらきを理解できる</li> <li>5. 臨床検査器具を使用し、その使用法、特性を理解できる</li> </ol>

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	皮膚感覚（触圧点・痛点）	介田	13	温度感覚	介田
2	〃	〃	14	〃	〃
3	皮膚感覚（冷点・温点）	〃	15	舌における味覚の分布	〃
4	〃	〃	16	〃	〃
5	皮膚感覚（2点識別閾）	〃	17	検知閾・認知閾	〃
6	〃	〃	18	〃	〃
7	歯の植立部位の弁別	〃	19	筋電図・随意運動の反応時間・聴覚	〃
8	〃	〃	20	〃	〃
9	視覚生理学	〃	21	除脳ねこ Video 実習	〃
10	〃	〃	22	〃	〃
11	重量感覚	〃	23	スパイロ・心電図	〃
12	〃	〃	24	〃	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他(        ) ( 50% )    (    % )    (    % )    (    % )    ( 50% )    (    % )
準備学習 学習へのアドバイス	実習前に生理学の予習をして、実習にのぞんでください。
履修条件	特にありません

教科書	特にありません
参考書	解剖生理学 実験テキスト —生理学編— 木本 万里・戸田 一雄 著 おうふう

科目名	臨床運動学	開講年度	2026	期	後期
科目担当責任者	久保田 智博 (所属 長崎労災病院 リハビリテーション科 作業療法士)				
	(実務経験：有) 作業療法士としての臨床経験を活かし、学生指導にあたる				
科目担当者	久保田 智博				
学 科	作業療法学科			学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2
				時間数	30

授業の概要 (主題)	グループ学習を通して臨床的な知識の獲得と問題解決能力をたかめていく。また、協力して取り組む中で、探究心を養ってもらいたい。
授業の到達目標	身体運動の分析を理解する 臨床における動作の中の関節運動・筋活動の意味を理解する 臨床における反射・反応を理解する 臨床における特異的な動作を理解する

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	オリエンテーション・リスク管理	久保田
第2回	リスク管理	〃
第3回	骨・関節の障害	〃
第4回	腱・靭帯の障害	〃
第5回	筋の障害	〃
第6回	筋の障害	〃
第7回	神経の障害	〃
第8回	神経の障害	〃
第9回	体幹の障害	〃
第10回	体幹の障害	〃
第11回	上肢・手指の障害	〃
第12回	上肢・手指の障害	〃
第13回	下肢の障害	〃
第14回	下肢の障害	〃
第15回	歩行の障害	〃

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (70%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (20%) <input type="checkbox"/> レポート ( %) <input checked="" type="checkbox"/> その他( ) (10%)
準備学習 学習へのアドバイス	一度習った事の復習的な部分もあるので、より内容を理解していくつもりで学習してもらいたい
履修条件	グループ学習を基本に授業をすすめていく

教科書	プリントを使用
参考書	

科目名	整形外科科学2	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	小谷 泉(長崎リハビリテーション学院専任講師) (実務経験: <input checked="" type="radio"/> 有・無) 病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに整形外科科学2の指導にあたる。				
科目担当者	小谷 泉(長崎リハビリテーション学院専任講師)				
学 科	作業療法学科	学 年	2		
必修/選択	必須	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 (主題)	理学療法における整形外科疾患の理解を深める
授業の到達目標	1. 各分野の特徴を理解する。 2. 国家試験における出題基準を確認する。

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	骨折について、骨折の合併症について	小谷
第2回	脱臼の靭帯損傷について、末梢神経損傷について	小谷
第3回	他末梢神経損傷について、骨端症について	小谷
第4回	脊椎疾患について、変形性関節症について	小谷
第5回	変形性関節症について、関節リウマチについて	小谷
第6回	骨粗鬆症について、切断について	小谷
第7回	スポーツ外傷について、熱傷について	小谷
第8回	その他整形外科疾患について、まとめ	小谷

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他 (    ) (100%)    (    %)    (    %)    (    %)    (    %)    (    %)
準備学習 学習へのアドバイス	1年次での整形外科科学の復習を行ってください。 講義内で不明な点は、積極的に質問するようにしてください。
履修条件	真摯な態度で臨み、私語を慎むこと

教科書	PT・OT 基礎固めヒント式トレーニング 臨床医学編 第3版 (南江堂)
参考書	必要時、配布する

科目名	神経内科学2		開講年度	2026	期	前期	
科目担当責任者	小谷 泉 長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師 (実務経験: <u>有</u> ・無) 病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに神経内科学2の指導にあたる。						
科目担当者	小谷 泉 長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師 河村 綾子 (きらら薬局薬剤師)						
学 科	作業療法学科				学 年	2	
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 (主題)	神経内科は神経系の疾患を扱う学問で、大きく中枢神経系疾患、末梢神経系疾患、神経筋接合部疾患、筋疾患に分けられる。本講義では、人間における神経生理学的特徴、診察、疾患、治療にいたるまで、広い視点で臨床医学としても使用できるように知識を習得する。
授業の到達目標	脳・神経・筋疾患の病態生理、症状、症候、予後などについて、国家試験出題レベルの知識をもつ。

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	高次脳機能障害、運動麻痺	小谷
第2回	感覚障害、その他の症候	小谷
第3回	脳血管障害、頭部外傷	小谷
第4回	大脳皮質の変性症（認知症）、大脳基底核の変性	小谷
第5回	脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患	小谷
第6回	脱髄性疾患、筋疾患	小谷
第7回	神経筋接合部疾患	小谷
第8回	まとめ	小谷
第9回	神経疾患の薬理学	河村
第10回	神経疾患の薬理学	河村

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input type="checkbox"/> 小テスト ( %) <input type="checkbox"/> レポート ( %) <input type="checkbox"/> その他 ( %)
準備学習 学習へのアドバイス	一度学習した分野なので、復習を兼ねて取り組んでください。
履修条件	欠席が無いよう体調管理、スケジュール管理に注意すること。積極的な講義参加、講義への貢献を期待します。

教科書	PT・OT 基礎固めヒント式トレーニング 臨床医学編 第3版 (南江堂)
参考書	

科目名	内科学2	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	内田 智子（長崎リハビリテーション学院） （実務経験：有）病院にて作業療法士として勤務。臨床現場での経験をもとに指導にあたる。				
科目担当者	内田 智子、河村 綾子（きらら薬局 薬剤師）				
学 科	作業療法学科	学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
		時間数	15		

授業の概要 （主題）	国家試験問題に対応できるように内科学1で学んだ疾患の理解を深める。作業療法評価や治療に応用できる力をつける。また、薬剤の知識の習得を図る。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科学1で学んだ知識の理解を深める。</li> <li>・国家試験問題の出題ポイントを整理する。</li> </ul>

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	循環器疾患	内田
第2回	呼吸器疾患	内田
第3回	消化器疾患	内田
第4回	血液疾患	内田
第5回	代謝・内分泌疾患	内田
第6回	膠原病	内田
第7回	循環器疾患の薬剤について	河村
第8回	高齢者の多剤について	河村

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他（    ） (100%)    (    %)    (    %)    (    %)    (    %)    (    %)
準備学習 学習へのアドバイス	内科学1の内容を事前に復習しておくようにしてください。
履修条件	

教科書	標準理学療法・作業療法学 内科学 第4版（医学書院）
参考書	

科目名	精神医学2	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	坪田優一（長崎リハビリテーション学院）				
	（実務経験：有） 病院にて作業療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに指導にあたる。				
科目担当者	河村 綾子（きらら薬局 薬剤師） 坪田優一				
学 科	作業療法学科	学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
		時間数	15		

授業の概要 （主題）	<p>1) 各精神障害の各臨床ステージにおける症状群から患者の機能障害、活動・活動制限、参加・参加制約などの系統的な評価について概説する。</p> <p>2) 各精神障害における作業療法場面での評価・治療について説明できる。</p> <p>3) 過去の国家試験出題内容から、教科書を参考に症状の特徴を捉える</p>
授業の到達目標	<p>1) 各精神障害の精神症状が説明できる。</p> <p>2) 各精神障害の臨床経過が説明できる。</p> <p>3) 各精神障害の治療法が説明できる。</p>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	統合失調症	坪田
第2回	統合失調症	坪田
第3回	気分障害	坪田
第4回	気分障害	坪田
第5回	神経症性障害・パーソナリティ障害	坪田
第6回	アルコール依存症・物質関連障害・小児精神障害	坪田
第7回	各精神疾患の病態生理と薬物療法	河村
第8回	各精神疾患の病態生理と薬物療法	河村

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他(        ) ( 100% )        (    % )        (    % )        (    % )        (    % )        (    % )
準備学習 学習へのアドバイス	教科書等で予備知識を持つこと。
履修条件	必修科目である。

教科書	学生のための精神医学 太田保之・上野武治（編集）第3版, 医歯薬出版株式会社, 2014,
参考書	

科目名	臨床心理学	開講年度	2026	期	前期		
科目担当責任者	城下 未来（長崎リハビリテーション学院）						
	（実務経験：有）公認心理師・臨床心理士として学校や民間相談機関、産業メンタルヘルスでのカウンセリングに従事。それらの経験を踏まえ、対人援助場面において必要な臨床心理学の知識について講義を行う。						
科目担当者	城下 未来						
学 科	作業療法学科	学 年	2				
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 （主題）	臨床心理学の概要について学習し、患者の心理的問題の理解や援助の基礎となる知識を習得する。
授業の到達目標	1. 臨床心理学の基礎知識を理解できる。 2. 援助を必要とする対象者の心理的問題について理解し、その理解の方法について説明できる。

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	臨床心理学概説	城下
第2回	パーソナリティ（人格理論）	城下
第3回	異常心理・ストレス、防衛機制	城下
第4回	発達	城下
第5回	心理アセスメント①	城下
第6回	心理アセスメント②	城下
第7回	心理療法①	城下
第8回	心理療法② ・ まとめ	城下

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他（演習・出席） （ 80%）    （    %）    （    %）    （ 20%）    （    %）    （    %）
準備学習 学習へのアドバイス	可能な範囲で確認テストや演習なども取り入れながら行います。積極的な参加を望みます。
履修条件	

教科書	系統看護学講座 基礎分野 心理学（医学書院） その他、毎回授業の際に資料を配布予定。
参考書	必要時に適宜紹介する。

科目名	健康増進論	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	桑原由喜（長崎リハビリテーション学院） （実務経験：有）病院及び介護施設にて作業療法士として勤務。現場の経験をもとに健康増進論について指導する。				
科目担当者	桑原由喜、松田 恵子（南野病院 管理栄養士）				
学 科	作業療法学科	学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2
				時間数	30

授業の概要 （主題）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の介護予防に関する講義と実践を通して、健康増進の目的を理解し、将来の地域活動に必要な作業療法士としての素地を養う。</li> <li>・健康増進のための栄養の重要性を理解し、身体の維持向上に必須であることを理解する。</li> </ul>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康増進の定義と目的を述べることができる。</li> <li>・高齢者に生じやすい症候に関する評価と予防策を説明することができる。</li> <li>・高齢者の介護予防事業を企画し、教員の引率のもと実践することができる。</li> <li>・介護予防事業に参加した高齢者の状態に配慮した関わりができる。</li> <li>・チーム医療の中で栄養の知識を得ることでOTとして多職種協働に参画し、患者の残存機能の向上を目指す一助となること。</li> </ul>

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	健康増進 定義・変遷・現在（健康日本21）	桑原
第2回	フレイル予防	桑原
第3回	サルコペニア予防、ロコモティブシンドローム予防	桑原
第4回	認知症予防	桑原
第5回	評価 演習	桑原
第6回	事例検討	桑原
第7回	高齢者の介護予防事業 演習（スライド作成）、発表	桑原
第8回	高齢者の介護予防事業 実践（大村市内公民館 9月中旬予定）	桑原
第9回	高齢者の介護予防事業 実践（大村市内公民館 9月中旬予定）	桑原
第10回	栄養を知る 栄養とは・栄養の重要性・一日の必要摂取量	松田
第11回	栄養評価とは 簡易式栄養評価など・評価後の選択	松田
第12回	栄養補給法 経腸栄養と経口栄養・嚥下障害	松田
第13回	臨床栄養学1 生活習慣病の栄養（がん・高血圧・高脂血症・糖尿病・肝炎）	松田
第14回	在宅医療と介護保険の在宅栄養の現在 在宅栄養の現在と課題	松田
第15回	乳幼児期の栄養・アレルギー・非常時の栄養	松田

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験（70%） <input type="checkbox"/> 実技試験（ % ） <input type="checkbox"/> 実習評価（ % ） <input type="checkbox"/> 小テスト（ % ） <input type="checkbox"/> レポート（ % ） <input checked="" type="checkbox"/> その他(発表)（30%）
準備学習 学習へのアドバイス	介護予防事業への参加の詳細は授業の中でお伝えします。介護予防事業の実践にむけてしっかり準備をしてください。
履修条件	
参考書	作業療法マニュアル63 作業療法士ができる地域支援事業への関わり方

科目名	画像診断学1 (中枢)	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	中野 友輝 (所属 長崎医療センター 放射線科)				
	(実務経験: <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) 放射線科医師として臨床で押さえておくべき中枢神経画像診断を解説する				
科目担当者	中野 友輝				
学 科	作業療法学科	学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 (主題)	CT・MRI の基本を学ぶ
授業の到達目標	CT・MRI の基本的な正常解剖を理解し、病変の初歩的診断ができること。 医療チームの一人としてCTやMRI から患者さんの病態をある程度把握できること。

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	CT・MRI の画像の特徴	中野
第2回	CT・MRI の基本的な正常解剖	中野
第3回	疾患の特徴と画像診断 (脳血管障害)	中野
第4回	〃 (脳腫瘍)	中野
第5回	〃 (頭部外傷)	中野
第6回	〃 (感染・脱髄疾患)	中野
第7回	〃 (眼窩内病変)	中野
第8回	〃 (脊椎・脊髄病変)	中野

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( % ) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( % ) <input type="checkbox"/> 小テスト ( % ) <input type="checkbox"/> レポート ( % ) <input type="checkbox"/> その他( ) ( % )
準備学習 学習へのアドバイス	画像診断は病気の診断だけでなく、患者さんの病態を把握するためにも非常に重要です。 医療現場での患者さんの状態理解に役立つと思います。
履修条件	

教科書	わかりやすい脳脊髄のMR・CT / 診断のポイントと症例集
参考書	

科目名	画像診断学2（骨・関節）	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	木村 和也（ 諫早記念病院 整形外科 医師 ）				
	（実務経験：有） 整形外科医として臨床現場の経験をもとに指導にあたる				
科目担当者	木村 和也				
学 科	作業療法学科	学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 （主題）	骨軟部疾患の画像診断（第2版）に沿って講義をすすめる。
授業の到達目標	1. 整形外科主要疾患の理解 2. 将来現場で使える画像読解の基礎づくり

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第1回	股関節	木村
第2回	膝関節	木村
第3回	足関節・足部	木村
第4回	肩関節	木村
第5回	肘関節	木村
第6回	手関節・手部	木村
第7回	脊椎	木村
第8回	骨髄	木村

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他（      ） （100%）      （    %）      （    %）      （    %）      （    %）      （    %）
準備学習 学習へのアドバイス	骨格標本と画像を比較する
履修条件	

教科書	骨軟部疾患の画像診断 第2版
参考書	

科目名	リハビリテーション概論2	開講年度	2026	期	後期
科目担当責任者	橋口将大（長崎リハビリテーション学院 専任講師）				
	（実務経験：有） 病院・施設にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに指導にあたる。				
科目担当者	橋口将大、桑原由喜、中尾佳布（長崎リハビリテーション学院 専任講師）				
学 科	作業療法学科			学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 （主題）	リハビリテーションの概念・理念・定義を理解したうえで、日本における医学的リハビリテーションの展開を各々の視点から学ぶ。他職種の専門性の理解、チーム医療、他職種協業について体験し、学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションにおける療法士の位置づけや役割を理解できる</li> <li>2. チームアプローチ、他職種協業について説明できる</li> <li>3. 障害像を把握した上で、必要な評価を選択し、情報を得ることができる</li> <li>4. 症例の問題点を抽出し、発表できる</li> </ol>

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	オリエンテーション、症例紹介	橋口・桑原・中尾
第2回	症例の情報収集	橋口・桑原・中尾
第3回	症例の障害像把握と必要な評価の選択	橋口・桑原・中尾
第4回	統合と解釈	橋口・桑原・中尾
第5回	問題点抽出	橋口・桑原・中尾
第6回	リハゴール設定	橋口・桑原・中尾
第7回	症例検討会（発表）	橋口・桑原・中尾 各2年生担任
第8回	同上	橋口・桑原・中尾 各2年生担任

成績評価の方法 （評価の基準）	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他(発表) (    %)    (    %)    (    %)    (    %)    (50 %)    (50 %)
準備学習 学習へのアドバイス	1～6回はグループワークで進めます。将来、チーム医療の一員として働くことを考え、積極的な態度と責任ある行動を望みます。テキストやインターネット等を活用し、各職種の情報収集～治療までの基本的な流れを復習しておくこと。
履修条件	これから専門職を目指すものとしての心構えをしっかりとった受講態度を求めます。また、社会人、医療人を目指すものとして、相応しい取り組みを求めます。

教科書	必要なものを持参
参考書	

科目名	基礎作業学技法・分析 2	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	桑原 由喜 (長崎リハビリテーション学院) (実務経験:有) 病院にて作業療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに指導にあたる。				
科目担当者	桑原 由喜、内田 智子、眞浦健人				
学 科	作業療法学科	学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
		時間数	30		

授業の概要 (主題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・織機の実習を通して、織り機の構造・使用法・治療的応用について学ぶ (内田)</li> <li>・レクリエーション療法の概要と企画立案・実施について学ぶ (桑原)</li> <li>・IADL (調理) の実践・活動分析を通して治療的介入について学ぶ (眞浦)</li> </ul>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・織機の各部名称・道具が説明できる (内田)</li> <li>・織機の工程ごとに、治療的観点が分析できる (内田)</li> <li>・各グループでレクリエーションの企画－立案－実施する一連の流れを体験する (桑原)</li> <li>・事例から ICF を作成し、問題点抽出、介入計画を立案できる (眞浦)</li> </ul>

授業計画		
回数	内 容	担当
1	織機の実習・工程分析・治療的効果	内田
2	同上	内田
3	同上	内田
4	同上	内田
5	同上	内田
6	レクリエーション療法の概要	桑原
7	レクリエーション療法の実践	桑原
8	レクリエーション療法の実践	桑原
9	レクリエーション療法の実践	桑原
10	レクリエーションの発表	桑原
11	IADL の活動分析について	眞浦
12	調理の実践	眞浦
13	調理の活動分析	眞浦
14	グループでの活動分析まとめ	眞浦
15	グループでの発表	眞浦

成績評価の方法 (評価の基準)	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他(発表) (    %)            (30%)            (    %)            (    %)            (60%)            (10%)
準備学習 学習へのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・織機的全工程が体験し分析できるように必ず出席すること (内田)</li> <li>・レクリエーション実施ではグループが協力して行うこと (桑原)</li> <li>・自分が行った分析と、他者が行った分析を比較し、評価の視点を広げること (眞浦)</li> </ul>
履修条件	

教科書	
参考書	ひとと作業・作業活動 (三輪書店)、作業活動実習マニュアル 精神障害と作業療法 (三輪書店) 標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学 (医学書院)

科目名	職場管理学	開講年度	2026	期	後期
科目担当責任者	末武 達雄 (佐世保中央病院 作業療法士)				
	(実務経験：有) 病院にて作業療法士として勤務。作業療法部門の管理運営の経験をもとに指導にあたる。				
科目担当者	末武 達雄				
学 科	作業療法学科	学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 (主題)	職場での作業療法業務のマネジメントに関する様々な内容を学習し、その課題解決の方法を知る
授業の到達目標	作業療法業務のマネジメントについて理解する

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	第1章 作業療法とマネジメント、第2章 組織の成り立ちとマネジメント (Ⅰ組織とは、Ⅱ組織と個人)	末武
第2回	第2章 組織の成り立ちとマネジメント (Ⅲ病院組織の特徴と組織のなかでの作業療法士の役割 Ⅳ作業療法部門組織)	末武
第3回	第4章 医療サービスのマネジメント	末武
第4回	第6章 作業療法業務のマネジメント① 人・物・経済性のマネジメント	末武
第5回	第7章 作業療法のマネジメント② 情報・時間・ストレスのマネジメント (Ⅰ情報のマネジメント)	末武
第6回	第7章 作業療法のマネジメント② 情報・時間・ストレスのマネジメント (Ⅱタイムマネジメントとストレスマネジメント)	末武
第7回	第8章 作業療法業務のマネジメントー実践からの学びー (Ⅰ作業療法部門の業務管理、Ⅱ人材育成のマネジメント)	末武
第8回	第8章 作業療法業務のマネジメントー実践からの学びー (Ⅲ連携のマネジメント Ⅳ地域で活躍する作業療法のマネジメント Ⅴ行政期間で働く作業療法士の地域住民の生活を支えるマネジメント Ⅵ災害時の作業療法の役割)	末武

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他 (       ) (100%)       (    %)       (    %)       (    %)       (    %)       (    %)
準備学習 学習へのアドバイス	作業療法管理学 (医歯薬学出版社) の各章の末にある学習課題について考えておくこと
履修条件	

教科書	作業療法管理学 (医歯薬学出版社)
参考書	

科目名	作業療法評価学 2	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	内田 智子 (長崎リハビリテーション学院)				
	(実務経験：有) 作業療法士としての臨床現場の経験をもとに指導にあたる				
科目担当者	内田 智子・田中 剛				
学 科	作業療法学科	学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義/実技	単位数	2
				時間数	60

授業の概要 (主題)	障害像を把握するための作業療法評価の意義・目的、考え方、基本的な検査・測定技術を習得する。 主に徒手筋力検査法、上肢機能検査、姿勢反射検査、協調性検査、QOL (興味・役割)、脳神経検査、疼痛検査を実技中心で実施していく。
授業の到達目標	1. 作業療法に関わる評価技術を理解する 2. 各検査法について説明し、実施できる

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	徒手筋力テストの原理 (講義)	内田	16	上肢機能検査 (講義)	田中
2	上肢の筋力テスト (実技)	内田	17	上肢機能検査 (講義・実技)	田中
3	上肢の筋力テスト (実技)	内田	18	上肢機能検査 (実技)	田中
4	上肢の筋力テスト (実技)	内田	19	姿勢反射検査 (講義)	田中
5	上肢の筋力テスト (実技)	内田	20	姿勢反射検査 (講義・実技)	田中
6	上肢の筋力テスト (実技)	内田	21	姿勢反射検査 (実技)	田中
7	下肢の筋力テスト (実技)	内田	22	疼痛検査 (講義・実技)	田中
8	下肢の筋力テスト (実技)	内田	23	協調性検査 (講義)	田中
9	下肢の筋力テスト (実技)	内田	24	協調性検査 (実技)	田中
10	下肢の筋力テスト (実技)	内田	25	協調性検査 (実技)	田中
11	下肢の筋力テスト (実技)	内田	26	脳神経検査 (講義)	田中
12	体幹の筋力テスト (実技)	内田	27	脳神経検査 (講義・実技)	田中
13	体幹の筋力テスト (実技)	内田	28	脳神経検査 (実技)	田中
14	体幹の筋力テスト (実技)	内田	29	QOL (講義・実技)	田中
15	体幹の筋力テスト (実技)	内田	30	復習	田中

成績評価の方法 (評価の基準)	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他( ) ( %)    (100%)    ( %)    ( %)    ( %)    ( %)
準備学習 学習へのアドバイス	座学も大切ですが、実技が重要になります。しっかり復習をしましょう。講義は臨床実習と同じ気持ちで臨むこと。実技練習・実技試験時は上下 KC・実技のできる靴・白の靴下を着用し髪はきちんと整えること。ペンライト・脳神経検査セット (実施講義前に説明) の準備をお願いします。
履修条件	

教科書	標準作業療法学作業療法評価学, 第3版, 医学書院 新・徒手筋力検査法, 第10版, 協同医書出版
参考書	作業療法学全書作業療法評価学 (協同医書)、ベッドサイドの神経の診かた (南山堂)、病気が見える7脳・神経 (MEDIC MEDIA) 機能解剖学的触診技術上肢・下肢・体幹 (MEDICAL VIEW)

科目名	作業療法評価学3	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	坪田 優一（長崎リハビリテーション学院）				
	（実務経験： <b>有</b> ・無）病院及び介護施設にて作業療法士として勤務。現場の経験をもとに作業療法評価学3について指導する。				
科目担当者	坪田 優一（長崎リハビリテーション学院） 山田 麻和（長崎北病院 総合リハビリテーション科長 作業療法士） 円能寺 哲・前田 大輝（あきやま病院 作業療法士） 恒任 章（つねとう内科 医師）・吉永 龍史（嬉野医療センター 理学療法士）				
学 科	作業療法学科	学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義・演習	単位数	1
		時間数	45		

授業の概要 (主題)	対象者が示すさまざまな症状・行為から、どのような疾患・障害なのかの原因把握と生活へどのような影響があるかなど、対象者を総合的に理解し援助するための方法である評価といえます。精神・高次脳・認知機能面における評価の流れと各疾患における評価のポイントを学習します。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法における評価の流れを説明できる。</li> <li>・対象者にとって適切な面接・観察技術を身につける。</li> <li>・それぞれの検査目的を理解し、正しく検査を実施することができる。</li> <li>・心電図や脳画像等を読み解ける知識を身につける。</li> </ul>

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	高次脳評価 ①画像評価 脳回と脳溝、脳部位	山田	16	作業遂行特性チェック表作業評価	坪田
2	高次脳評価 ②画像評価 疾患別特性、脳部位の同定	山田	17	ISDA・SMSFを用いた面接	坪田
3	高次脳評価 ③全般的認知、知能、 スクリーニング評価、行動観察 MMSE-J、コース、FAB	山田	18	ISDA・SMSFを用いた面接	坪田
4	高次脳評価 ④注意・前頭葉 TMT、CAT、BADs、強制把握	山田	19	OSCE 精神科領域	円能寺 前田
5	高次脳評価 ⑤半側空間無視・頭頂葉 BIT、CBS、身体失認	山田	20	OSCE 精神科領域	円能寺 前田
6	高次脳評価 ⑥後頭葉 VPTA、視野検査	山田	21	OSCE 精神科領域	円能寺 前田
7	高次脳評価 ⑦失行 STGS、SPTA	山田	22	OSCE 精神科領域	円能寺 前田
8	高次脳評価 まとめ 病巣との照らし合わせ、症例	山田	23	心電図	恒任
9	精神障害領域における評価方法・手段	坪田	24	心電図	恒任
10	「面接法」の概要および「傾聴」	坪田	25	心電図	恒任
11	「観察法」の概要および評価体験	坪田	26	心電図	恒任
12	「観察法」の概要および評価体験	坪田	27	心電図	恒任
13	疾患別評価 統合失調症・気分障害	坪田	28	心電図	吉永
14	疾患別評価 アルコール依存症 神経症性障害	坪田			
15	疾患別評価 パーソナリティ障害	坪田			

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他(    ) ( 70 %)    ( 30 %)    (   %)    (   %)    (   %)    (   %)
準備学習 学習へのアドバイス	実技が多いので、欠席のないようにしてください。
履修条件	

教科書	作業療法評価学第3版, 能登真一他 編, 医学書院 精神障害と作業療法 新版、三輪書店
参考書	高次脳機能障害学第2版, 石合純夫, 医歯薬出版 リハに役立つ脳画像第2版, 大村優慈, メジカルビュー

科目名	治療学 2	開講年度	2026	期	後期
科目担当責任者	坪田優一（長崎リハビリテーション学院 作業療法学科専任講師）				
	（実務経験：有） 病院にて作業療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに指導にあたる。				
科目担当者	林田 浩司、明時 裕介、三宅 陽平、平川 樹、坪田優一、眞浦 健人				
学 科	作業療法学科	学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
		時間数	30		

授業の概要 （主題）	臨床現場で学内履修科目を活かすことができるよう事例等を交えながら演習を行っていく。また実習前に備えておくべき認知スキルを習得する。
授業の到達目標	1. 事例の障害像について理解できる 2. 国際生活機能分類（ICF）に基づいて整理することができる

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	ICF 各論と演習（中枢疾患）	眞浦
第2回	ICF 各論と演習（中枢疾患）	眞浦
第3回	ICF 各論と演習（中枢疾患）	眞浦
第4回	ICF 各論と演習（中枢疾患）	眞浦
第5回	ICF 各論と演習（精神疾患）	坪田
第6回	ICF 各論と演習（精神疾患）	坪田
第7回	ICF 各論と演習（精神疾患）	坪田
第8回	ICF 各論と演習（精神疾患）	坪田
第9回	分野別臨床実習前学内演習（脳血管障害）	三宅
第10回	分野別臨床実習前学内演習（脳血管障害）	三宅
第11回	分野別臨床実習前学内演習（骨折）	平川
第12回	分野別臨床実習前学内演習（骨折）	平川
第13回	分野別臨床実習前学内演習（精神障害）	林田
第14回	分野別臨床実習前学内演習（精神障害）	林田
第15回	分野別臨床実習前学内演習（発達障害）（精神障害）	明時
第16回	分野別臨床実習前学内演習（発達障害）（精神障害）	明時

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験（100%） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 実習評価（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（演習・出席）（ %）
準備学習 学習へのアドバイス	演習を取り入れながら行いますので、積極的な参加を望みます。 定期試験：坪田 50%、眞浦 50%
履修条件	

教科書	関連する科目の教科書または資料の準備
参考書	

科目名	身体障害治療学 1(中枢 A)		開講年度	2026	期	前期	
科目担当責任者	眞浦 健人 (長崎リハビリテーション学院)						
	(実務経験：有) 病院にて作業療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに指導にあたる。						
科目担当者	眞浦 健人・中尾 佳布 (長崎リハビリテーション学院 専任講師) 三原 和行 (元佐世保国際通り病院 作業療法士) 小柳 昌彦 (長崎北病院 作業療法士)						
学 科	作業療法学科				学 年	2	
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	45

授業の概要 (主題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 脊髄損傷の病態や障害像とその評価について学習し、基本動作の実践を学習する (三原)</li> <li>・ 作業療法の対象となる中枢神経疾患として代表的な脳卒中、頭部外傷に対する作業療法の理論と実際について学ぶ (眞浦)</li> <li>・ 摂食嚥下障害の基本的な解剖や評価、治療について学ぶ (中尾)</li> <li>・ 脳卒中患者に対してのロボット支援について学ぶ (小柳)</li> </ul>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 脊髄損傷者の病体および障害像を理解し、基本動作 (寝返り、起き上がり、移乗、車椅子操作など) の実践を通して、脊髄損傷者の作業療法を実践する力を養う (三原)</li> <li>・ 脳血管障害・頭部外傷の病態について述べる事ができる (眞浦)</li> <li>・ 病期別に応じた評価・目標・治療について述べる事ができる (眞浦)</li> <li>・ 摂食嚥下障害の基本的な評価や治療について述べる事ができる (中尾)</li> <li>・ 脳卒中患者に対し、どのようなロボット支援が行われているのか述べる事ができる (小柳)</li> </ul>

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	脳卒中の病態・障害像	眞浦
第2回	機能的予後・回復過程	眞浦
第3回	脳卒中の評価	眞浦
第4回	脳卒中の画像所見と障害像の予測	眞浦
第5回	病期別に応じた作業療法の流れ	眞浦
第6回	脳卒中患者の ADL について	眞浦
第7回	脳卒中患者の ADL について	眞浦
第8回	急性期の病態・目標・合併症・治療	眞浦
第9回	回復期の病態・目標・治療	眞浦
第10回	維持期の病態・目標・治療	眞浦
第11回	頭部外傷の病態・目標・治療	眞浦
第12回	脊髄損傷の病態	三原
第13回	脊髄損傷の障害像	三原
第14回	評価と目標設定	三原
第15回	作業療法実践	三原
第16回	せき損者の福祉住環境整備	三原
第17回	事例紹介	三原
第18回	実技指導	三原
第19回	国試問題解説	三原
第20回	摂食嚥下に関わる解剖、摂食嚥下の5期モデル	中尾
第21回	摂食嚥下障害の評価と訓練	中尾
第22回	脳卒中患者のロボット支援について	小柳
第23回	脳卒中患者のロボット支援について	小柳

<b>科目名</b>	身体障害治療学 1(中枢 A) 続き
<b>成績評価の方法 (評価の基準)</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input type="checkbox"/> 小テスト ( %) <input type="checkbox"/> レポート ( %) <input type="checkbox"/> その他 ( %)
<b>準備学習 学習へのアドバイス</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脊損を理解するには解剖の知識（特に筋）が不可欠であるため、筋の解剖をしっかり予習しておくこと</li> <li>・脳血管障害の理解には脳解剖の知識が不可欠であるため、事前に脳解剖の予習を行う</li> </ul>
<b>履修条件</b>	
<b>教科書</b>	作業療法全書第4巻 身体障害
<b>参考書</b>	エガース・片麻痺の作業療法 (協同医書出版社) 作業療法全書第4巻 身体障害学 p96～121 共同医書出版社 脊髄損傷理学療法マニュアル 文光堂

科目名	身体障害治療学 2(中枢 B)	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	内田 智子				
	(実務経験：有) 病院にて作業療法士として勤務。臨床現場での経験をもとに指導にあたる。				
科目担当者	内田 智子				
学 科	作業療法学科	学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 (主題)	・神経筋疾患の病態・症状を学ぶ ・神経筋疾患の作業療法評価、プログラム、治療について学ぶ
授業の到達目標	・各疾患の評価の選択、病期に合わせたプログラムや治療を考える事ができる

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	パーキンソン病の病態・評価・治療	内田
第2回	パーキンソン病の "	内田
第3回	脊髄小脳変性症の "	内田
第4回	多発性硬化症の "	内田
第5回	筋萎縮性側索硬化症の "	内田
第6回	ギランバレー症候群の "	内田
第7回	重症筋無力症の "	内田
第8回	進行性筋ジストロフィー症の "	内田

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input type="checkbox"/> 小テスト ( %) <input type="checkbox"/> レポート ( %) <input type="checkbox"/> その他( ) ( %)
準備学習 学習へのアドバイス	各神経筋疾患の症状などについて、事前に復習をしておくこと。
履修条件	

教科書	作業療法技術ガイド 第4版 文光堂 日常生活活動 (ADL) 第2版 神陵文庫
参考書	

科目名	身体障害治療学 3 (整形)	開講年度	2026	期	後期
科目担当責任者	田崎 和幸 (所属: 愛野記念病院手外科センター副センター長)				
	(実務経験: 有) 手外科のある病院に勤務し、ハンドセラピーの基礎から実践まで、その臨床現場での経験をもとに学生の指導にあたる。				
科目担当者	田崎 和幸、田中 剛				
学 科	作業療法学科			学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	30

授業の概要 (主題)	整形外科領域における治療学を少しでも理解し、今後の臨床実習に活かせることを目標とし、整形外科領域に興味をもってもらう。
授業の到達目標	① 作業療法士の担当する可能性の高い疾患について概要特徴を理解する ② その上で治療に必要な知識を習得していく

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	手の機能解剖学、手外科の基礎医学、手外科の評価	田崎
第2回	〃	田崎
第3回	骨折のリハビリテーション	田崎
第4回	〃	田崎
第5回	腱損傷のリハビリテーション	田崎
第6回	〃	田崎
第7回	末梢神経損傷のリハビリテーション	田崎
第8回	〃	田崎
第9回	骨折の作業療法について ①	田中
第10回	〃 ②	田中
第11回	〃 ③	田中
第12回	〃 ④	田中
第13回	変形性関節症の作業療法について ①	田中
第14回	〃 ②	田中
第15回	末梢神経損傷の作業療法について ①	田中
第16回	〃 ②	田中

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input type="checkbox"/> 小テスト ( %) <input type="checkbox"/> レポート ( %) <input type="checkbox"/> その他 ( %)
準備学習 学習へのアドバイス	実習で担当する機会も多い疾患もあります。重要ポイントをおさえながら学習に励んでください。実習・国家試験につなげていきましょう。田崎・田中で各50点ずつの配点です。
履修条件	

教科書	作業療法士のためのハンドセラピー入門 第2版、三輪書店、2009 作業療法学全書 改訂第3版 4 身体障害
参考書	

科目名	身体障害治療学 4 (内部)	開講年度	2026	期	後期
科目担当責任者	井戸 佳子 (元長崎リハビリテーション学院)				
	(実務経験: <input checked="" type="checkbox"/> 有・無) 病院及び介護施設にて作業療法士として勤務。現場の経験をもとに身体障害治療学 4 (内部) について指導する。				
科目担当者	井戸 佳子 (元長崎リハビリテーション学院) 桑原 由喜・内田 智子 (長崎リハビリテーション学院)				
学 科	作業療法学科	学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義・演習	単位数	1
		時間数	15		

授業の概要 (主題)	近年増加している内部障害の作業療法について、疾患と障害の特徴を理解し、作業療法評価・治療・援助についての知識や技術を修得する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部障害の分類と増加の背景を説明することができる。</li> <li>・心臓疾患の危険因子、活動制限、作業療法上の注意点を述べることができる。</li> <li>・呼吸器疾患における換気障害の種類とその代表疾患を挙げることで、呼吸困難感を生じやすい動作と呼吸障害を軽減させる動作の工夫について説明することができる。</li> <li>・腎臓疾患により生じる活動制限、作業療法の役割、長期透析による合併症について説明することができる。</li> <li>・糖尿病の分類、症状、合併症、作業療法上の注意点について説明することができる。</li> <li>・悪性腫瘍の治療による副作用、乳がん手術療法で生じやすい機能障害とリハビリテーション、終末期患者に生じやすい症状、障害像について述べるができる。</li> <li>・吸引の目的、適応を説明することができ、模型を用いた吸引操作が実施できる。</li> </ul>

授業計画		
回数	内 容	担 当
第 1 回	概論	井戸
第 2 回	循環機能障害	井戸
第 3 回	呼吸機能障害	井戸
第 4 回	代謝機能障害 (糖尿病)	井戸
第 5 回	腎機能障害	井戸
第 6 回	悪性腫瘍	井戸
第 7 回	まとめ	井戸
第 8 回	吸引の講義と実技	井戸、桑原、 内田

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (80%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (20%) <input type="checkbox"/> レポート ( %) <input type="checkbox"/> その他( ) ( %)
準備学習 学習へのアドバイス	内科学の復習をしてください。
履修条件	

教科書	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学, 山口 昇 編, 医学書院
参考書	身体障害作業療法学 2 内部疾患編, 羊土社

科目名	発達障害治療学	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	住吉 秀人（放課後等デイサービス サニー）				
	（実務経験：有）発達・小児分野で作業療法士として携わっており、その経験をもとに講義を行う。				
科目担当者	住吉 秀人（放課後等デイサービス サニー）、古賀慎治				
学 科	作業療法学科			学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義/実技	単位数	1
				時間数	30

授業の概要 （主題）	発達期に障害をもった子どもや人への作業療法について 必要な基礎知識や治療法（手技など）を学習する
授業の到達目標	1、発達期に障害をもった子どもや人の理解を深める 2、肢体不自由をもつ子どもを中心とした障害特性の理解を深める 3、肢体不自由をもつ子どもの作業療法の理解を深める 4、発達期に障害をもった子どもや人をとりまく地域支援について理解を深める 5、発達期に障害をもった子どもや人とその家族について理解を深める

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	発達系作業療法の基礎と概要	古賀
第2回	正常発達の基本と評価	古賀
第3回	医療的ケア・重症心身障害の関連疾患の基本	古賀
第4回	重症児の評価と正常発達	古賀
第5回	姿勢ケアの基本とポジショニング体験	古賀
第6回	摂食・嚥下の評価と体験	古賀
第7回	ICT活用と体験	古賀
第8回	臨床応用と国家試験対策	古賀
第9回	発達障害領域の作業療法	住吉
第10回	対象となる疾患と支援の概要	住吉
第11回	発達障害の評価	住吉
第12回	発達障害の評価	住吉
第13回	治療理論、技法	住吉
第14回	治療理論、技法	住吉
第15回	作業療法の実践	住吉
第16回	まとめ	住吉

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他(感想文等) ( 85 %) ( %) ( %) ( %) ( 10 %) ( 5 %)
準備学習 学習へのアドバイス	18歳までに障害をもった方々が障害をもったまま年齢を重ねていくため、乳幼児期から老人までの幅広い知識が必要になるため、講義に集中すること。人間発達学の教科書も使用する。
履修条件	必修科目であるので必ず出席すること。また、真摯な受講態度を望む。

教科書	標準作業療法学 発達過程作業療法学 第3版 医学書院
参考書	発達障害の作業療法 基礎編 第3版 三輪書店、発達障害の作業療法 応用編 第3版 三輪書店 脳性まひ児の24時間姿勢ケア 今川忠男 三輪書店

科目名	精神障害治療学	開講年度	2026	期	前・後期
科目担当責任者	坪田 優一（長崎リハビリテーション学院） （実務経験：有） 病院にて作業療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに指導にあたる。				
科目担当者	馬場 リカ（元・姉川病院作業療法士）・吉賀翔平（訪問介護ステーションきらり作業療法士）・円能寺 哲（あきやま病院作業療法士）・福田健一郎（真珠園療養所作業療法士）坪田 優一				
学 科	作業療法学科	学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2
				時間数	60

授業の概要 （主題）	作業療法の対象となる精神障害について、回復段階に応じたトータルリハビリテーションという立場から精神の病とそれに伴う生活障害およびそれらに対する援助の基本を学ぶ。そして精神医療の国内外の歴史と作業療法の関係、精神医療におけるリハビリテーションの概念と作業療法との関係などについて理解する。
授業の到達目標	① 障害の捉え方—ICF国際生活機能分類の構造を理解する ② 精神医療と精神科作業療法の歴史を理解する。 ③ 作業療法の基本的な視点と方法、実践論を学ぶ ④ 疾患別・障害別の作業療法の実際を知る。 ⑤ 精神科作業療法の理論・モデル・関連療法を知る。 ⑥ 精神科医療・精神科作業療法の今後の展望について。

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	精神障害者を取り巻く現状	坪田	16	地域生活支援の実際②	坪田
2	精神医療の歴史と作業療法	坪田	17	司法精神科医療における作業療法	坪田
3	ひとと病い リカバリーの概念	坪田	18	作業療法の実践マネジメント	坪田
4	作業療法の基本的な視点と方法	坪田	19	精神系作業療法に関連する理論①	坪田
5	作業療法の基本的実践論	坪田	20	精神系作業療法に関連する理論②	坪田
6	疾患・障害別作業療法 統合失調症	坪田	21	S S Tの概念と実践	坪田
7	疾患・障害別作業療法 気分障害	坪田	22	S S Tの概念と実践	坪田
8	疾患・障害別作業療法 神経症性障害	坪田	23	認知行動療法について	福田
9	疾患・障害別作業療法 摂食障害	坪田	24	認知行動療法について	福田
10	疾患・障害別作業療法 パーソナリティ障害	坪田	25	レクリエーション（集団力動と作業療法）	馬場
11	疾患・障害別作業療法 児童・思春期	坪田	26	レクリエーション（集団力動と作業療法）	馬場
12	疾患・障害別作業療法 認知症	坪田	27	ACT（包括的地域生活支援プログラム）	吉賀
13	疾患・障害別作業療法 てんかん	坪田	28	ACT（包括的地域生活支援プログラム）	吉賀
14	疾患・障害別作業療法 薬物依存	坪田	29	依存症に対する作業療法	円能寺
15	地域生活支援の実際①	坪田	30	依存症に対する作業療法	円能寺
成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他（聴講態度等） （ 100% ）    （    % ）    （    % ）    （    % ）    （    % ）    （    % ）				
準備学習 学習へのアドバイス	各疾患の作業療法士としての対応は病期によって変わります。授業の内容はしっかり復習しましょう。				
履修条件					
教科書	作業療法学全書 精神障害：日本作業療法士協会、精神障害と作業療法：三輪書店				
参考書	学生のための精神医学 太田保之・上野武治（編集）第3版，医歯薬出版株式会社，2014，				

科目名	老年期障害治療学		開講年度	2026	期	後期	
科目担当責任者	講師調整中						
	(実務経験：有・無)						
科目担当者							
学 科	作業療法学科				学 年	2	
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 (主題)	老年期の特徴を理解し、関わることの多い認知症を中心に学ぶ。認知症の中核症状とそこに個人因子や環境因子が絡んで表現される症状全容を把握する能力を養う。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老いの課題を述べることができる</li> <li>・ 老年期の一般的特徴と廃用症候群の基礎的知識を挙げるができる</li> <li>・ 認知症を生じる4大疾患の特徴を述べるができる</li> <li>・ 症状と生活障害の関連を説明することができる</li> <li>・ 老年期に特徴的な評価を挙げ実施することができる</li> <li>・ 目的に応じた作業療法介入の方法を挙げるができる</li> <li>・ ICFの観点から全容をとらえ、作業療法アプローチを立案することができる</li> </ul>

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	老年期とはどのような時期か	講師調整中
第2回	認知症 4大疾患と症状	〃
第3回	認知症 生活障害	〃
第4回	作業療法評価	〃
第5回	作業療法評価	〃
第6回	作業療法介入	〃
第7回	作業療法介入	〃
第8回	まとめ	〃

成績評価の方法 (評価の基準)	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他(    ) (    %)    (    %)    (    %)    (    %)    (    %)    (    %)
準備学習 学習へのアドバイス	誰もが未知の世界である老年期。そこに生きる人に敬意を払って理解しようとする姿勢が求められます。
履修条件	

教科書	老年期の作業療法, 浅海奈津美・守口恭子, 三輪書店
参考書	「若い」を生きるということ, 竹中星郎, 中央法規 高齢期における認知症のある人の生活と作業療法第2版, 守口恭子, 三輪書店

科目名	高次脳機能障害治療学	開講年度	2026	期	後期
科目担当責任者	山田 麻和 (所属 長崎北病院 作業療法士)				
	(実務経験：有) 病院にて作業療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに高次脳機能障害治療学の指導にあたる。				
科目担当者	山田 麻和、小柳 昌彦、(長崎北病院 作業療法士) 田中 美紀 (長崎リハビリテーション学院言語療法学科専任講師)				
学 科	作業療法学科			学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 (主題)	高次脳機能障害の基礎知識を基に、臨床で行う評価から問題点(能力)抽出を行い、治療に繋げる流れを学習する。
授業の到達目標	1) 高次脳機能障害の基礎知識を深め、臨床像を理解できる。 2) 様々な高次脳機能障害の評価から問題点(能力)抽出ができる。 3) 高次脳機能障害に対する治療方法を理解できる。 4) ケース検討において目標設定・治療方法を立案できる。

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	脳機能の特徴や神経心理学的検査のポイントについて学ぶ	山田
第2回	〃	山田
第3回	高次脳機能を理解する： 画像所見の見方(大脳半球の局在、連合野の役割)と症候の見方を学ぶ	山田
第4回	〃	山田
第5回	高次脳機能障害に対する臨床推論を学ぶ：左半球事例 講師の提示する事例をもとに問題点の抽出と治療方法を理解する	山田
第6回	〃	山田
第7回	高次脳機能障害に対する臨床推論を学ぶ：右半球事例 講師の提示する事例をもとに問題点の抽出と治療方法を理解する	小柳
第8回	〃	小柳
第9回	失語	田中

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他( ) ( 100%) ( %) ( %) ( %) ( %) ( %)
準備学習 学習へのアドバイス	限られた時間数であるため初回講義までに予習課題を行って下さい。 講義後には教科書にて復習を行って下さい。
履修条件	出席と活発な質疑を望みます。

教科書	高次脳機能障害領域の作業療法 中央法規出版
参考書	必要時、授業で紹介します。

科目名	運動療法	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	塚本 倫央（所属 長崎労災病院 リハビリテーション科 作業療法士） （実務経験：有）病院にて作業療法士として勤務。現場（身体障害分野）の経験をもとに運動療法について指導する。				
科目担当者	塚本 倫央、橋口 将大（理学療法学科 専任講師）				
学 科	作業療法学科	学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
		時間数	15		

授業の概要 （主題）	運動療法の基礎知識と技術について学習する
授業の到達目標	実習で安全に運動を指導できる知識の習得

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第1回	運動療法の基礎 I	塚本
第2回	運動療法の基礎 II	〃
第3回	運動療法機器	〃
第4回	関節可動域運動	〃
第5回	協調性の改善	〃
第6回	筋力維持増強運動	〃
第7回	持久力増強運動	〃
第8回	全身調整運動	〃
第9回	物理療法についての総論	橋口
第10回	物理療法についての各論	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他(        ) ( 100 % )        (    % )        (    % )        (    % )        (    % )        (    % )
準備学習 学習へのアドバイス	特になし。講義後の振り返りのみ。
履修条件	

教科書	運動療法 I（神陵文庫）
参考書	

科目名	音楽療法	開講年度	2026	期	後期
科目担当責任者	三島 素子 (所属 楽し・ミック有有限会社 精神保健福祉士 ) (実務経験：有) 長年病院に勤務して、音楽療法士としての臨床現場の経験をもとに、講義を行う。				
科目担当者	三島 素子				
学 科	作業療法学科	学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
		時間数	15		

授業の概要 (主題)	“ひと”の生活と“音楽”をテーマとし、歴史や音楽療法の実践例に関する情報提供を行うとともに、学生自身の経験から音楽の効果(弊害)を紐解き、音楽療法に関する理解を深める。
授業の到達目標	1.音楽が何故治療に用いられることが可能なのかについて理解できる。 2.音楽療法の主要な理論について理解できる。 3.児童・成人・高齢者領域での音楽療法の実際について理解できる。

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	【生活と音楽】 歴史と共に変化する音楽の活用法について/身近な音楽体験を振り返り、その効果を確認する	三島
第2回	【コミュニケーションと音楽】 人の音を聴く・誰かに聞いてほしい音・一緒に楽しみたい音楽 について	〃
第3回	【小児領域の音楽療法】 実践例など	〃
第4回	【成人(精神科)領域の音楽療法】 実践例など	〃
第5回	【言葉と音楽】 目に見えない曖昧なメッセージを持つ“音楽”について	〃
第6回	【記憶と音楽】 記憶がつなげる音楽について	〃
第7回	【高齢者領域の音楽療法】 実践例など	〃
第8回	まとめ	〃

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input type="checkbox"/> 小テスト ( %) <input type="checkbox"/> レポート ( %) <input type="checkbox"/> その他( )
準備学習 学習へのアドバイス	簡単な楽器操作を行なうので積極的な参加を望む。
履修条件	出席をすることと、真摯な受講態度を望む。

教科書	再改定版] 基礎から学ぶ音楽療法 海鳥社
参考書	

科目名	デジタル活用支援	開講年度	2026	期	後期
科目担当責任者	植田 友貴（西九州大学リハビリテーション学部作業療法学専攻 准教授） （実務経験：有）これまでの臨床経験、研究分野での知識をもとに指導にあたる				
科目担当者	植田 友貴・小柳 昌彦（長崎北病院 作業療法士）				
学 科	作業療学科	学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
		時間数	15		

授業の概要 （主題）	ICT などのデジタル活用技術について理解し、事例を通して作業療法士としての関わり方を学ぶ。
授業の到達目標	・対象となる疾患に対しての支援方法について理解できる ・ICTなどのデジタル活用方法を理解できる

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第1回	神経難病のリハについて	植田
第2回	重度障害児・者への支援について	植田
第3回	意思伝達装置とスイッチ・センサーについて	植田
第4回	〃	植田
第5回	運転支援と移動支援についての概要、法制度と運転支援	小柳
第6回	事例を通じた関わり（運転再開に必要な評価、運転シュミレーター導入）	小柳
第7回	〃	小柳
第8回	実際の自動車での評価実演（体験）	小柳

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他(        ) ( 100 % )    (    % )    (    % )    (    % )    (    % )    (    % )
準備学習 学習へのアドバイス	作業療法士としての知見を増やすために積極的な講義への参加を望みます。
履修条件	

教科書	配布資料
参考書	

科目名	日常生活活動学 2	開講年度	2026	期	前後期
科目担当責任者	眞浦 健人 (長崎リハビリテーション学院) (実務経験：有) 作業療法士として臨床現場の経験をもとに指導にあたる				
科目担当者	田中 剛・眞浦 健人				
学 科	作業療法学科	学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2
				時間数	60

授業の概要 (主題)	日常生活活動学1で習得した内容をもとに、ADLの概要を理解し、標準化された検査法の習得と臨床の評価に必要なADLの観察方法、基本的能力の分析方法を学び、指導(介助)方法の実習を行う。また各疾患のADLの特徴について学習していく。
授業の到達目標	1. リハビリテーションの臨床でよく使用されるADLや評価法の概要を説明できる 2. ADLの観察・記述・分析方法を理解する 3. ADL、基本動作の介助指導を理解する 4. 各疾患のADLの特徴について理解する

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	ADL 総論	田中	16	移乗動作 (スライディングボード)	眞浦
2	ADL 総論	田中	17	基本動作のまとめ	眞浦
3	脊髄損傷総論	田中	18	基本動作のまとめ	眞浦
4	脊髄損傷の ADL	田中	19	動作分析 (基本動作) 演習	眞浦
5	関節リウマチ (RA) 総論	田中	20	動作分析 (基本動作) 演習	眞浦
6	関節リウマチ (RA) の ADL	田中	21	脊髄小脳変性症の ADL①	眞浦
7	ADL 評価 (FIM・BI)	田中	22	脊髄小脳変性症の ADL②	眞浦
8	ADL 評価 (FIM・BI)	田中	23	筋萎縮性側索硬化症の ADL①	眞浦
9	基本動作	眞浦	24	筋萎縮性側索硬化症の ADL②	眞浦
10	基本動作	眞浦	25	進行性筋ジストロフィー症の ADL	眞浦
11	寝返り・起き上がり動作 (介助)	眞浦	26	慢性閉塞性肺疾患の ADL	眞浦
12	寝返り・起き上がり動作 (介助)	眞浦	27	パーキンソン病の ADL①	眞浦
13	立ち上がり動作 (介助)	眞浦	28	パーキンソン病の ADL②	眞浦
14	移乗動作 (介助)	眞浦	29	動作分析 (ADL) 演習	眞浦
15	移乗動作 (介助)	眞浦	30	動作分析 (ADL) 演習	眞浦

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (70%) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (30%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
準備学習 学習へのアドバイス	座学も大切ですが、実技が重要になります。しっかり復習をしましょう。講義は臨床実習と同じ気持ちで臨むこと。実技練習・実技試験時は上下 KC・実技のできる靴・白の靴下を着用し髪はきちんと整えること。試験の配点は実技 30 点・筆記 70 点とします
履修条件	

教科書	作業療法学全書日常生活活動 (協同医書)、理学療法テキストV日常生活活動 (神陵文庫) ADL・実習 (中山書店)
参考書	姿勢と動作 (メヂカルフレンド)、脊髄損傷のリハビリテーション (医学書院) PT・OTのための臨床技能と OSCE 機能障害・能力低下への介入編 (金原出版)

科目名	義肢学	開講年度	2026	期	前期		
科目担当責任者	大庭 潤平 (所属 神戸学院大学 総合リハビリテーション 作業療法学科 教授)						
	(実務経験:有) この講義の担当者は、作業療法士として、義肢装具の適応、訓練、開発に関する実務を29年間携わっている。その経験を活かした講義を行います。						
科目担当者	大庭 潤平						
学 科	作業療法学科	学 年	2				
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 (主題)	上肢切断の疾病・障害の特性を知り作業療法過程を考える。 その手段としての義手の役割と効果を知り、作業療法について考える。
授業の到達目標	上肢切断の疾病・障害の特性を知り、説明できる。 義手について理解し、上肢切断の作業療法を説明できる。

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	上肢切断について	大庭
第2回	上肢切断者のリハビリテーション	大庭
第3回	作業療法の評価	大庭
第4回	作業療法実践過程について	大庭
第5回	義手の分類と部品各種	大庭
第6回	義手チェックアウト (前腕・上腕用)	大庭
第7回	筋電義手について	大庭
第8回	上肢切断者の実生活について	大庭

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (90%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input type="checkbox"/> 小テスト ( %) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (10%) <input type="checkbox"/> その他( ) ( %)
準備学習 学習へのアドバイス	整形外科 (切断)、運動学を復習して欲しい。
履修条件	なし

教科書	「義肢装具と作業療法」 医歯薬出版株式会社 2017
参考書	・切断と義肢 (第2版)、医歯薬出版株式会社、2016 ・義肢装具のチェックポイント (第9版)、医学書院、2021

科目名	装具学	開講年度	2026	期	後期		
科目担当責任者	内田 智子（長崎リハビリテーション学院） 岩木 寛（長崎有菌義肢製作所 義肢装具士）						
	（実務経験：有） 病院にて作業療法士として勤務。臨床現場での経験をもとに指導にあたる。						
科目担当者	内田 智子・岩木 寛（所属 長崎有菌義肢製作所 義肢装具士）						
学 科	作業療法学科	学 年	2				
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	30

授業の概要 （主題）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上肢・体幹・下肢装具に関する基礎知識を学ぶ</li> <li>・スプリントを作成して、製作手順、チェックアウトの実際を学ぶ</li> </ul>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各装具の名称・目的・分類が説明できる</li> <li>・各装具の機構と適応疾患が説明できる</li> <li>・基本的なスプリントが作成できる</li> </ul>

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	装具の分類と目的（総論）	内田
第2回	下肢装具の種類と適応	内田
第3回	下肢装具の種類と適応	内田
第4回	体幹装具の種類と適応	内田
第5回	上肢装具の種類と適応	内田
第6回	上肢装具の種類と適応	内田
第7回	上肢装具の種類と適応	内田
第8回	上肢装具の種類と適応	内田
第9回	スプリント作成	内田
第10回	スプリント作成	内田
第11回	スプリント作成	内田
第12回	（講義・演習）義肢・装具制作の実際	岩木
第13回	（講義・演習）義肢・装具制作の実際	岩木
第14回	（講義・演習）義肢・装具制作の実際	岩木
第15回	（講義・演習）義肢・装具制作の実際	岩木

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他(        ) ( 100% )    (    % )    (    % )    (    % )    (    % )    (    % )
準備学習 学習へのアドバイス	装具の採型をする時は、動きやすく、汚れてもよい服装でおねがいします。
履修条件	必修科目であるので必ず出席すること。

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラストでわかる装具療法，医歯薬出版株式会社</li> <li>・義肢装具と作業療法，医歯薬出版株式会社，第1版</li> </ul>
参考書	

科目名	職業関連活動	開講年度	2026	期	後期
科目担当責任者	兼元 博康 (ACTしまばら 施設長, 作業療法士)				
	(実務経験: 有) 作業療法士および管理者としての経験を活かし、学生指導を行う。				
科目担当者	兼元 博康 (ACTしまばら 施設長, 作業療法士)				
学 科	作業療法学科	学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
		時間数	15		

授業の概要 (主題)	職業リハビリテーションの意義を理解し、作業療法の役割及び職業関連活動に必要な基礎知識を身につけることを目指します。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職業リハビリテーションの概要を理解する。</li> <li>2. 就労支援に必要な制度や社会資源を理解できる。</li> <li>3. 就労支援施設について説明を聞くことで障害者の働く意義を理解する。</li> </ol>

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回 第2回	① 職業リハビリテーションの概念	兼元
第3回 第4回	② 障害者支援施設 大村パールハイム見学実習	兼元
第5回 第6回	③ 就労支援に活かす評価の実際 ・一般職業適性検査や職業興味テスト等	兼元
第7回 第8回	④ 作業療法士による就労支援の実際	兼元

成績評価の方法 (評価の基準)	<input type="checkbox"/> 定期試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input type="checkbox"/> 小テスト ( %) <input checked="" type="checkbox"/> レポート ( 10 %) <input type="checkbox"/> その他( ) ( %)
準備学習 学習へのアドバイス	
履修条件	

教科書	
参考書	資料配布、作業療法全書「職業関連活動」 協同医書出版社

科目名	生活環境学	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	桑原 由喜（長崎リハビリテーション学院）				
	（実務経験：有） 病院にて作業療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに指導にあたる。				
科目担当者	桑原 由喜				
学 科	作業療法学科	学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	30

授業の概要 （主題）	障害者や高齢者の生活支援の手段として、環境を整えることを学ぶ。疾患および障害像を理解し、家屋、福祉用具、制度活用の面からとらえる力を養う。
授業の到達目標	高齢者や障害者を取りまく環境を理解し、その住環境整備の基本を学ぶ。 福祉住環境整備の基本技術を理解することを目的として、福祉住環境コーディネーターの受験をし、合格を到達目標とする

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第1回	OR	桑原
第2回	高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義（1）	桑原
第3回	高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義（2）	桑原
第4回	障害のとらえかたと自立支援のありかた（1）	桑原
第5回	障害のとらえかたと自立支援のありかた（2）	桑原
第6回	疾患別にみた不自由と住環境整備の考え方（1）	桑原
第7回	疾患別にみた不自由と住環境整備の考え方（2）	桑原
第8回	相談援助の考え方と住環境整備の進め方（1）	桑原
第9回	相談援助の考え方と住環境整備の進め方（2）	桑原
第10回	福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識（1）	桑原
第11回	福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識（2）	桑原
第12回	福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識（2）	桑原
第13回	福祉用具の活用	桑原
第14回	福祉用具の活用	桑原
第15回	模擬試験	桑原

成績評価の方法 （評価の基準）	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート    その他(        ) (80%)        (    %)        (    %)        (    %)        ( 20%)        (    %)
準備学習 学習へのアドバイス	毎回、1時間程度のグループワークで過去問題学習をします。福祉住環境コーディネーター受験に向かってしっかり勉強してください。毎回レポートがありますので、次の講義までに作成して授業に参加してください。提出は最終講義日にまとめて提出します。
履修条件	遅刻のない、真摯な授業態度を望む 指定された予習を行うこと

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉住環境コーディネーター検定試験「2級公式テキスト」：東京商工会議所</li> <li>福祉住環境コーディネーター重要問題集&amp;予想問題 2級</li> </ul>
参考書	

科目名	サービスラーニング	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	田中 剛（長崎リハビリテーション学院） （実務経験 <b>有</b> ・無）病院・介護施設にて作業療法士として勤務。現場の経験をもとにサービスラーニングについて指導する。				
科目担当者	田中 剛、専任教員（見学の引率）				
学 科	作業療法学科	学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義・実技	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 （主題）	対象者の生活場面からの学びを通して、対象者の思いをくみ取り生活課題を分析したうえで生活の全体像を理解する。さらに、作業療法士としての生活支援の視点を育む。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>（1）コミュニケーションを通して対象者と信頼関係を築くことができる</li> <li>（2）面接を通して対象者の生活行為の目標を聞き取ることができる</li> <li>（3）生活の評価（FIM、工程分析等）を行い、生活障害の原因を分析することができる</li> <li>（4）『生活行為向上マネジメント（MTDLP）』のシートを用いて、事例の生活課題を分析し支援プランを立てることができる</li> </ul>

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	MTDLP 総論、演習（面接、工程分析）	田中
第2回	見学（三彩の里）	専任教員
第3回	見学（三彩の里）	専任教員
第4回	見学（三彩の里）	専任教員
第5回	見学（三彩の里）	※見学後、レポート提出 専任教員
第6回	情報の整理	田中
第7回	事例 検討・まとめ	田中
第8回	事例 発表	田中

成績評価の方法 （評価の基準）	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他(発表 ) (    % )    (    % )    (    % )    (    % )    (50 %)    (50 %)
準備学習 学習へのアドバイス	見学で担当した対象者の全体像を作業療法の視点で理解する内容です。 丁寧に取り組んでいきましょう。
履修条件	真摯で積極的な態度

教科書	なし
参考書	事例で学ぶ生活行為向上マネジメント，医歯薬出版

科目名	臨床実習 2	開講年度	2026	期	後期
科目担当責任者	作業療法学科全教員（長崎リハビリテーション学院）				
	（実務経験：有） 病院で作業療法士として勤務。臨床の経験を基に臨床実習 2 について指導する。				
科目担当者	作業療法学科専任講師				
学 科	作業療法学科	学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	実習	単位数	6
		時間数	270		

授業の概要 （目標）	実習施設において面接や観察を適宜行い、諸検査・測定方法の正しい実施や結果の記録、そして、各結果のアセスメントができるように作業療法士から直接指導を受けたり、実際の患者と接触したりといった体験を通して作業療法の思考過程を学ぶことを目標に実習を行っている。
---------------	--

授業計画		
回数	内 容	担当
2026 年 10 月(3 週間) 2027 年 1 月(4 週間)	実習指導者の指導・監督の下で、実際の対象者に対して作業療法評価を実施する。	作業療法学専科全教員

成績評価の方法 （評価の基準）	実習終了時には指導者による学生の学修成果の評価を踏まえ、学校会議にて成績評価を行う。
--------------------	--

準備学習 学習へのアドバイス	臨床実習指導を担当する作業療法士に対して、実習開始前に臨床指導者会議を実施している。この会議では実習の目的・目標等の共通理解を深めることを目的に実施している。
履修条件	

教科書	臨床実習で必要とするすべての専門書
参考書	

令和 8 年度 (2026 年度)

シラバス (授業計画)

作業療法学科 3 年次

科目名	ホスピタリティー論3	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	田中 美吉子 (所属 合同会社ヒューマンナガサキ)				
	(実務経験：有) 多くの企業や学校で接遇講座やマナーレッスンの講義を務め、長年の職務経験を活かして指導にあたる				
科目担当者	田中 美吉子				
学 科	作業療法学科	学 年	3		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 (主題)	①医療のあらゆる場面で求められるビジネスマナーと対人コミュニケーションについて演習を取り入れながら実践的に学習する。 ②就職活動時の基本的マナーを演習する。
授業の到達目標	・ 社会人としてのビジネスマナーとコミュニケーション力を養う。 ・ 就職活動に必要なマナーを心得る。

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	ビジネスマナー、訪問のマナー、名刺交換	田中
第2回	食事のマナー (お箸や食器の遣い方、お茶のいただき方など)	田中
第3回	アサーティブコミュニケーション (自他尊重のコミュニケーション)	田中
第4回	アサーションを活用した職場のコミュニケーションと演習	田中
第5回	就職活動における心構えとマナーについて	田中
第6回	自己分析、自己PR、志望動機など	田中
第7回	ホスピタリティー論の総復習、弱点克服	田中
第8回	模擬面接 (口頭試験)	田中

成績評価の方法 (評価の基準)	<input type="checkbox"/> 定期試験 ( %) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 ( 60 %) <input type="checkbox"/> 演習評価 ( %) <input type="checkbox"/> 小テスト ( %) <input type="checkbox"/> レポート ( %) <input checked="" type="checkbox"/> その他(学習態度) ( 40 %)
準備学習 学習へのアドバイス	授業への取組姿勢、態度、身だしなみ、他者との関わり方すべてを評価対象とします。接遇マナーは習慣です。授業で学んだことを実生活でも常に意識しましょう。
履修条件	

教科書	配布資料
参考書	パワーポイントをお借りします。

科目名	作業療法研究	開講年度	2026	期	前期		
科目担当責任者	桑原 由喜 (長崎リハビリテーション学院)						
	(実務経験：有) 病院にて作業療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに指導にあたる。また、教育研究を行いその結果を学会で発表している。						
科目担当者	桑原 由喜						
学 科	作業療法学科	学 年	3				
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 (主題)	在学中の臨床実習においてのみならず、卒後の臨床実践の中で研究活動をしていくために、作業療法における(実証)研究の意義・目的を確認し、さらに、どのような知識が必要かを学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究とは何かを知る。</li> <li>2. 研究のプロセスを概観する。</li> <li>3. 代表的な研究法(デザイン)の内容や目的、運用方法を理解する。</li> <li>4. 論文の書き方を学習する</li> </ol>

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	研究の意義	桑原
第2回	文献レビュー	桑原
第3回	研究計画の手順と論文の構成	桑原
第4回	研究倫理・倫理指針	桑原
第5回	研究デザイン	桑原
第6回	質的研究に関わる基礎知識	桑原
第7回	シングルシステムデザイン	桑原
第8回	統計解析に関わる基礎知識	桑原

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (80%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( %) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input type="checkbox"/> 小テスト ( %) <input checked="" type="checkbox"/> レポート ( 20%) <input type="checkbox"/> その他( %)
準備学習 学習へのアドバイス	・1 学年の授業で使用した教科書「健康・スポーツ科学のためのやさしい統計学(杏林書院)」持参
履修条件	

教科書	標準作業療法研究法(医学書院) 健康・スポーツ科学のためのやさしい統計学(杏林書院)
参考書	

科目名	作業療法総合実習 1		開講年度	2026	期	前期	
科目担当責任者	桑原由喜						
	(実務経験：有) 病院にて作業療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに指導にあたる。						
科目担当者	内田智子 田中剛 眞浦健人 沖英一 北川智恵 他						
学 科	作業療法学科				学 年	3	
必修/選択	必修	授業の形態	演習・実技	単位数	1	時間数	30

授業の概要 (主題)	MTDLP 演習や客観的臨床能力試験を通して長期臨床実習前に獲得すべき技能を学習する。
授業の到達目標	1. 生活行為向上マネジメントを用いることが出来る。 2. 面接・観察・検査・測定を用いた評価ができる。

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	MTDLP の理念と ICF モデルの理解	沖英一
第2回	MTDLP の理念と ICF モデルの理解	沖英一
第3回	MTDLP 概念と各シートの理解	沖英一
第4回	MTDLP 概念と各シートの理解	沖英一
第5回	事例検討 グループワーク	北川智恵
第6回	事例検討 グループワーク	北川智恵
第7回	事例検討 個人ワーク	北川智恵
第8回	事例検討 個人ワーク	北川智恵
第9回	技能試験についてオリエンテーション、日常生活動作の観察評価	桑原由喜
第10回	身体機能評価	田中剛
第11回	身体機能評価	内田智子
第12回	身体機能評価	内田智子
第13回	高次脳機能評価	眞浦健人
第14回	高次脳機能評価	眞浦健人
第15回	OSCE フィードバック	桑原 田中
第16回	OSCE フィードバック	桑原 田中
	客観的臨床能力試験	桑原 田中 他外来講師

成績評価の方法 (評価の基準)	<input type="checkbox"/> 定期試験 ( %) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 ( 50%) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( %) <input type="checkbox"/> 小テスト ( %) <input checked="" type="checkbox"/> レポート ( 50%) <input type="checkbox"/> その他 ( %)
準備学習 学習へのアドバイス	1. 2年次の評価学を復習して臨みましょう。授業だけでは学習時間が足りませんので、自己学習をしましょう。
履修条件	
教科書	配布資料
参考書	作業療法評価学 (医学書院)

科目名	作業療法総合実習 2		開講年度	2026	期	前期	
科目担当責任者	坪田 優一						
	(実務経験：有) 病院にて作業療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに指導にあたる。						
科目担当者	坪田 優一 眞浦健人 琴岡日砂代 玉島亜希子 三宅陽平 開浩一						
学 科	作業療法学科				学 年	3	
必修/選択	必修	授業の形態	演習・実技	単位数	1	時間数	30

授業の概要 (主題)	ICF を用いて、対象者の全体像を把握することができる。
授業の到達目標	疑問を持ち、主体的に解決できる。 各精神疾患の症状と治療を述べる事が出来る。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1～4 回	精神分野の臨床における治療過程を学ぶ 事例を用いた I C F 作成と治療目標・計画の検討	坪田
第 5～8 回	身障分野の臨床における治療過程を学ぶ 事例を用いた I C F 作成と治療目標・計画の検討	眞浦
第 9・10 回	アサーティブコミュニケーション	開
第 11～12 回	思春期における精神疾患の事例検討	玉島
第 13～14 回	片麻痺の機能回復アプローチ	三宅
第 15～16 回	発達分野の事例検討	琴岡

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他 ( ) (100%) ( %) ( %) ( %) ( %) ( %)
準備学習 学習へのアドバイス	臨床実習に向けて必要な知識・技術を学びます。予習が必要な科目については予習を行い出席すること。また講義後には復習をすること。
履修条件	必修科目であるので必ず出席すること。
教科書	配布資料
参考書	

科目名	作業療法総合セミナー		開講年度	2026	期	後期	
科目担当責任者	眞浦 健人						
	(実務経験：有) 病院にて作業療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに指導にあたる。						
科目担当者	内田智子 田中剛 坪田優一 眞浦健人						
学 科	作業療法学科				学 年	3	
必修/選択	必修	授業の形態	演習	単位数	1	時間数	45

授業の概要 (主題)	作業療法士として生涯にわたり活躍するための基礎を築くこと、すなわち知識、技術に関する基礎および医療専門知識、技術を習得する
授業の到達目標	1. 作業療法の基本的な知識と技能を述べる事が出来る 2. 過去6年分(60回~61回)の共通分野を正確に解答できる

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1.2回	模擬演習問題	坪田
第3回	グループワークの進め方、参考書の使い方	坪田
第2回 ～ 第23回	グループワークを中心に学習し、各グループからの質問に対する講義を実施する。	眞浦 内田 田中

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( % ) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( % ) <input type="checkbox"/> 小テスト ( % ) <input type="checkbox"/> レポート ( % ) <input type="checkbox"/> その他 ( % )
準備学習 学習へのアドバイス	1, 2, 3年生の講義の復習、特に解剖学、運動学、生理学、評価学、各治療学の復習をして臨みましょう。授業だけでは学習時間が足りませんので、自己学習をしましょう。
履修条件	
教科書	配布資料
参考書	

科目名	地域リハビリテーション論	開講年度	2026	期	前期		
科目担当責任者	井戸 佳子 (元長崎リハビリテーション学院)						
	(実務経験: <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無) 病院及び介護施設にて作業療法士として勤務。現場の経験をもとに地域リハビリテーション論について指導する。						
科目担当者	大坪 建 (和仁会病院 訪問リハビリテーション係長 作業療法士) 山田 麻和 (長崎北病院 総合リハビリテーション科長 作業療法士) 黒木 一誠 (井上病院 リハビリテーション科士長 作業療法士) 山口 健一 (あいのわデイサービス 作業療法士) 柿田 京子 (元介護老人保健施設うぐいすの丘 副施設長 理学療法士)						
学 科	作業療法学科			学 年	3		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	30

授業の概要 (主題)	地域リハビリテーションの概念を理解し、それを推進するための手段を学び、作業療法士の役割を理解する。
授業の到達目標	「障害をもって残りの人生を生きていく人に、OTとしてどのように向き合えばよいのか。安定した生活を支援するために何ができるだろうか。」そこを出発点にして地域リハビリテーションのありかたを考えることができる。

授業計画		
回数	内 容	担 当
第1回	地域リハビリテーションの定義と歴史	井戸
第2回	地域リハビリテーションの諸サービス	井戸
第3回	介護保険法	井戸
第4回	介護保険法	井戸
第5回	地域リハビリテーション活動支援事業 ほか	井戸
第6回	災害支援	黒木
第7回	災害支援	黒木
第8回	就労支援	山田
第9回	就労支援	山田
第10回	通所リハビリテーション	山口
第11回	通所リハビリテーション	山口
第12回	訪問リハビリテーション	大坪
第13回	訪問リハビリテーション	大坪
第14回	終末期ケア	柿田
第15回	終末期ケア	柿田

成績評価の方法 (評価の基準)	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (70%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( % ) <input type="checkbox"/> 実習評価 ( % ) <input type="checkbox"/> 小テスト ( % ) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (30%) <input type="checkbox"/> その他(    ) ( % )
準備学習 学習へのアドバイス	地域リハビリテーションの各分野で活躍されている講師の講義です。 広い視野でリハビリテーションを考えましょう。
履修条件	

教科書	なし
参考書	地域リハビリテーション原論, 大田仁史, 医歯薬出版

科目名	臨床実習 3	開講年度	2026	期	前期
科目担当責任者	作業療法学科全教員（長崎リハビリテーション学院） （実務経験：有） 病院にて作業療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに指導にあたる。				
科目担当者	臨床実習指導者 桑原由喜 内田智子 田中剛 眞浦健人 坪田優一				
学 科	作業療法学科	学 年	3		
必修/選択	必修	授業の形態	実習	単位数	15
		時間数	630		

授業の概要 （目標）	面接や観察を適宜行い、諸検査・測定方法の正しい実施、結果の記録ができる。また各結果のアセスメントができる。そして、臨床指導者と共に作業療法計画を立案し、一連の作業療法過程を体験できることを目標としている(作業療法過程での診療参加)
---------------	---

授業計画		
回数	内 容	担当
2026年5月(8週間) 2026年7月(8週間)	実習指導者の指導・監督の下で、実際の対象者に対して作業療法評価を実施しアセスメントを行う。また、作業療法計画を立案し一連の作業療法過程を体験できる。	作業療法学科 全教員

成績評価の方法 （評価の基準）	実習終了時には指導者による学生の学修成果の評価、客観的臨床能力試験の結果を踏まえ、学校会議にて成績評価を行う。
--------------------	---

準備学習 学習へのアドバイス	臨床実習指導を担当する作業療法士に対して、実習開始前に臨床指導者会議を実施している。この会議では実習の目的・目標等の共通理解を深めることを目的に実施している。
履修条件	

教科書	臨床実習で必要とするすべての専門書
参考書	